

平成8年度(1996年度)

日田市埋蔵文化財年報

平成8年度

日田市埋蔵文化財年報

日田市教育委員会



発刊にあたって

本年度は、念願の小迫辻原遺跡が国史跡指定の告示を受けることができました。これを記念して、当委員会では大分県教育委員会と別府大学との共催で、小迫辻原遺跡のフォーラムを開催し、多くの方々のご参加をいただきました。

また、埋蔵文化財の調査においても、市内の各所で縄文時代から近世までの遺跡の調査が相次ぎ、日田市の古代史ばかりか、日田市の歴史を考える上で貴重な考古学資料が蓄積されました。

本市での埋蔵文化財の調査は、年々増加の一途をたどっており、今後多くの遺跡が調査されることは間違いありません。これからも、開発者への埋蔵文化財への理解を求めると同時に、遺跡や遺物の公開などを通して、広く教育・文化の発展に寄与したいと考えております。

最後に、この1年間埋蔵文化財の調査に普及・啓発に、ご指導、ご協力賜りました関係者の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

平成10年3月

日田市教育委員会

教育長 加 藤 正 俊

例 言

- 1、本書は、平成8年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財保護事業の概要をまとめたものである。
- 2、本書には、大分県教育委員会が日田市内で行った埋蔵文化財保護事業の一部も合わせて掲載している。
- 3、発掘調査における遺物・図面・写真類等の資料については、日田市埋蔵文化財センターにて保管・展示している。
- 4、受領図書は平成8年4月1日から平成9年3月31日の間に日田市教育委員会に寄贈された書物を掲載し、併せて日田市立博物館あての書物も掲載した。
- 5、表紙の写真は尾漕2号墳の空中写真、裏表紙は同古墳の主体部の写真を使用した。また、掲載した写真の一部は、文化財写真家長谷川正美氏によるものである。
- 6、本書に掲載した図面の作図・製図は各担当者が行い、受領図書一覧表の作成では黒木千鶴子氏の手をわずらわせた。
- 7、本書の執筆はⅠ-1を上居、Ⅰ-2・3を各調査担当者、Ⅱを松下が行った。
- 8、編集は担当者間で協議し、上居があたった。

目 次

発刊にあたって

Ⅰ 平成8年度埋蔵文化財調査事業	1
1) 平成8年度の埋蔵文化財調査の概要	1
2) 発掘調査・確認調査の概要	4
3) 試掘調査・立会調査の概要	28
Ⅱ 平成8年度の埋蔵文化財普及・啓発事業	40
1) フォーラムの開催	40
2) 展示会の開催	41
3) 刊行物の紹介	42
4) 新指定文化財の紹介	43
Ⅲ 平成8年度受領図書一覧	44

I 平成8年度の埋蔵文化財調査事業

1) 平成8年度の埋蔵文化財調査の概要

平成8年度発掘調査等の動向（表1）

バブル崩壊後の経済低迷期にあって、本市には2つの企業の進出が決定した。サッポロビール㈱と小久保製氷㈱の日田工場である。いずれの進出場所も試掘調査を行ったところ遺跡の存在が明らかとなり、口が原遺跡・葛原遺跡の緊急の発掘調査を実施した。このほか、民間開発では住宅造成や店舗建設を主とする事前申請が多く、住宅造成に伴い馬形遺跡の発掘調査を行い、6件の試掘・立会調査を実施した。

公共事業では昨年度に引き続き高度総合木材加工団地（ウッドコンビナート）建設に伴う調査が主体となり、祇園原遺跡・長迫遺跡・尾漕2号墳の発掘調査を実施し、その取付道路に伴う試掘調査もスタートした。さらに、圃場整備事業も増える傾向にあり、本年度1件の試掘調査を行ったところ新たに森ノ元遺跡の存在が明らかとなっている。

平成8年度調査内容の動向（表2・第1図）

旧石器時代遺跡の本格的な調査例はなく、馬形遺跡で三稜尖頭器が出土している。

縄文時代遺跡の調査では、葛原遺跡において縄文時代後期の長方形プランの竪穴住居跡1棟が発見されている。市内では2例目となり、三万田式土器が出土している。このほか、上野第1遺跡では楕円押型文土器を含む包含層が確認されている。

弥生時代遺跡の調査では、祇園原遺跡が注目される。弥生時代中期後半から後期中頃の竪穴住居跡24軒、大型掘立柱建物や高床倉庫などの建物跡9棟などが発掘されている。ほぼこの時期に限られた遺構は、竪穴住居跡が円形から方形へと変化する過程や、竪穴住居跡と各種建物との配置関係などが明瞭で、この時期の集落構造を考える上で貴重な資料を提供している。昨年度に話題を集めた吹上遺跡の確認調査も始まった。墓域の確認を目的とした1年目であったが目的は達せず、前期末～中期初めの時期を主体とする生活遺構が検出されている。

古墳時代遺跡の調査は数例ある。長迫遺跡では沖積地から入り込んだ谷部において後期の集落跡が発見された。また、口が原遺跡では沖積地との比高差が大きな丘陵平坦部において前期や後期の竪穴住居跡が調査された。いずれの遺跡もこれまでに調査された集落立地とは異なっており、その立地における集落の在り方考える上で興味深い。また、墳墓の調査例として赤迫遺跡や尾漕2号墳の発掘調査がある。前者は丘陵上に展開する石蓋土壙墓6基で構成される中期（5世紀）の墳墓群で、鉄刀や鉄鏃などの副葬品を持ち、人骨の残りも良好であった。後者は直径25mの円墳であることが確認された。主体部など詳細は継続される調査に期待がかかるが、周溝から出土した土器より前期（4世紀末～5世紀初）の築造と推定され、市内でも数少ない古式の古墳として注目される。

古代遺跡の調査では、馬形遺跡がある。古墳時代後期から奈良時代まで続く集落跡が発掘されているが、その後平安時代には墓地へと変わる。2基発見された土壙墓は9世紀に営まれたもので、市内ではこの時期の墓の事例としては初例となる。このほかに、長迫遺跡や口が原遺跡においては、竪穴住居跡などの生活遺構が発見されている。

中・近世遺跡の調査では、祇園原遺跡において近世墓57基が調査された。市内では大規模な調査例で、人骨の残りも良く、今後の鑑定等による埋葬の在り方などの解明が楽しみである。史跡咸宜園跡の調査では招隠洞建物の発掘が成果をおさめ、次第に私塾咸宜園の様子が判明してきている。

表1 埋蔵文化財の調査件数推移グラフ

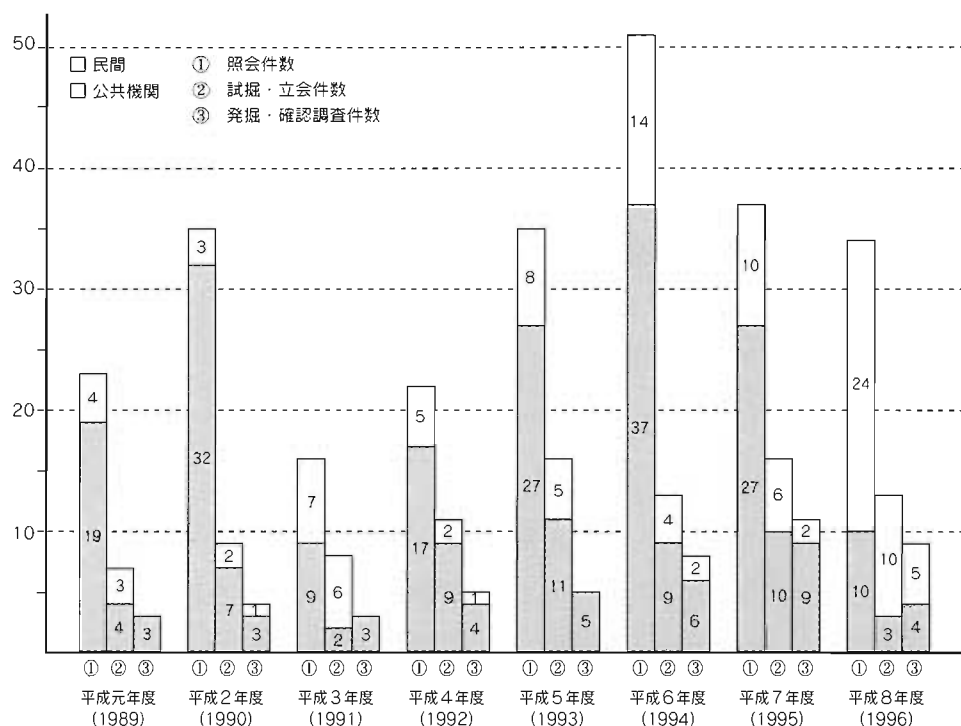


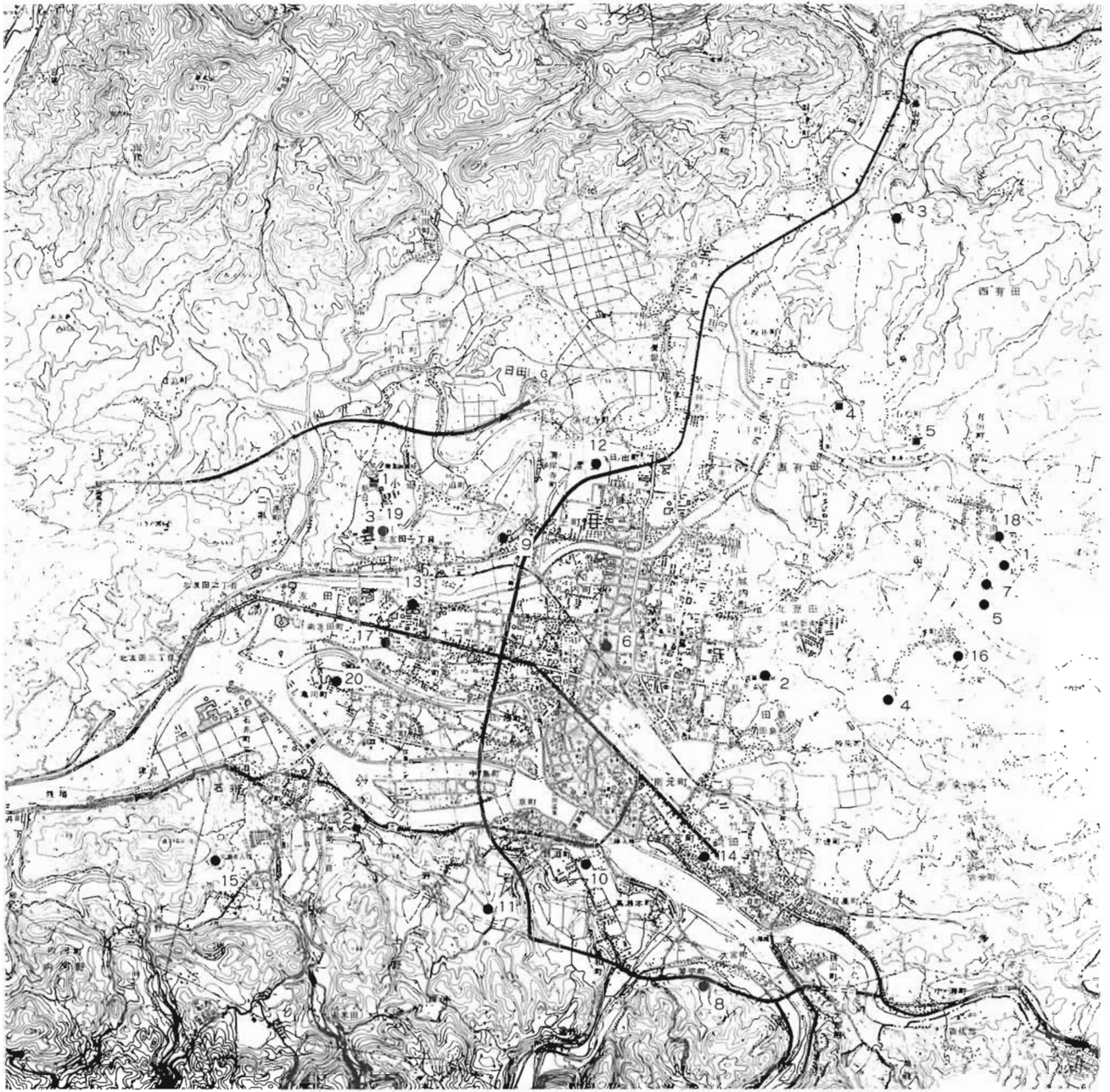
表2 平成8年度調査遺跡一覧表

日田市教育委員会

番号	遺 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	調 査 面 積	調 査 年 月 日	備 考
(発掘調査・確認調査)						
1	祇園原遺跡	大字東有田字ギオン原	団地造成工事	9,828㎡	0403～0920	
2	赤迫遺跡	大字北有田字赤迫	風倒木処理	1,500㎡	0418～0615	
3	葛原遺跡	大字西有田字葛原	工場建設	3,000㎡	0712～0810	
4	馬形遺跡	大字東有田字馬形	宅地造成	3,785㎡	0906～0317	
5	尾漕2号墳	大字有田字尾漕	団地造成工事	1,800㎡	0924～0331	次年度継続
6	史跡咸宜園跡	大字南有田字中城	史跡整備	280㎡	1203～0331	次年度継続
7	長迫遺跡	大字有田字長迫	団地造成工事	9,000㎡	1220～0331	次年度継続
8	口が原遺跡	大字高瀬字下木ノ上	工場建設	9,000㎡	0210～0331	次年度継続
9	吹上遺跡	大字小迫字吹上原	確認調査	150㎡	0304～0328	
(試掘調査・立会調査)						
10	銭測地区	大字高瀬字小柳	宅地造成	30㎡	0418	
3	葛原遺跡	大字西有田字葛原	工場建設	300㎡	0618	
11	上野第1遺跡	大字上野字東原	工場建設	600㎡	0712～0928	
12	日田条里下瀬井手地区	大字渡里字下瀬井手	店舗建設	240㎡	1023	
13	荻鶴遺跡隣接地	大字十二町字堀	宅地造成	30㎡	1025	
14	柳ノ本遺跡	大字竹田字松伏	宅地造成	30㎡	1030	
15	長者原遺跡	大字内河野字東又	宅地造成	30㎡	1105～1114	
8	口が原遺跡	大字高瀬字下木ノ上	工場建設	500㎡	1209～0130	
16	森ノ元遺跡	大字東有田字森ノ元	圃場整備	150㎡	0110～0130	次年度発掘
17	日田条里隣接地(島崎地区)	大字友田字島崎	宅地造成	20㎡	0116	
18	平島遺跡	大字東有田字ツキサキ	市道建設	90㎡	0204～0213	次年度発掘
19	片山遺跡	大字友田字島崎	球場整備	—㎡	0212	
20	徳瀬遺跡	大字南友田字徳瀬	宅地造成	300㎡	0319	

大分県教育委員会

番号	遺 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	調 査 面 積	調 査 年 月 日	備 考
(発掘調査・確認調査)						
1	朝日ヶ丘遺跡	大字小迫	県営住宅建設	600㎡	0212～0323	
2	寺内遺跡	大字石井	バイパス建設	500㎡	～	
(試掘調査・立会調査)						
3	片山遺跡	大字小迫	学校建設	㎡	～	
4	西有田地区	大字西有田	県道改良	14,400㎡	0628～0703	
5	西有田地区	大字西有田	県道改良	2,000㎡	1029	



市内の調査遺跡位置図(1 / 50,000)

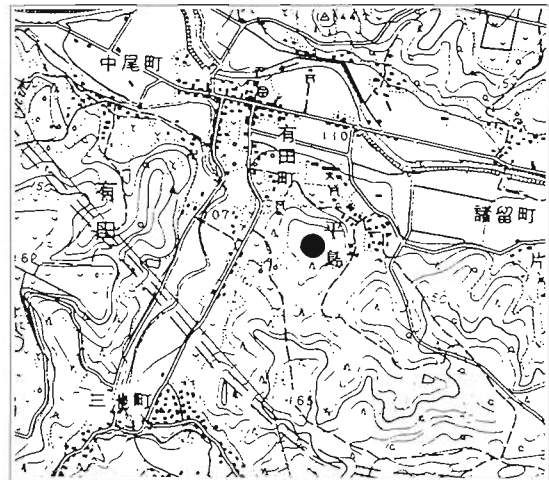
- 市教育委員会
- 県教育委員会

2) 発掘調査・確認調査の概要

1 祇園原遺跡 (GOB)

所在地 大字東有田字ギオン原2727ほか
調査期間 960307～961003
開発面積 (400,000㎡)
調査面積 9,828㎡
調査費 原因者負担
調査年次 2年次
遺跡の時代 弥生・古墳・近世
遺跡の種類 集落・墓
担当者 行時志郎・松下桂子・森山敬一郎
※ () はウッドコンビナート建設全体の開発面積

—ウッドコンビナート建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東部の沖積地を見下ろす舌状に張り出した丘陵先端部に位置する。遺跡より眼下に見下ろす北部沖積微高地上には弥生時代後期の環濠集落が発見された平島遺跡が存在する。また南部の小谷には長迫遺跡が、東部の谷筋には奈良時代の集落跡や水田遺構の確認された石ヶ迫遺跡が存在する。

調査の概要

昨年度に行った遺構以外について、引き続き発掘調査を実施した。このうち中心となったのは弥生時代中期後半から後期中頃にかけての遺構で、堅穴住居跡24軒、1間×2間の高床倉庫跡3棟、3間×6間・3間×7間・2間×5間の大型掘立柱建物跡各1棟、1間×2間の小型掘立柱建物跡2棟などのほか、小児用甕棺墓5基、円形周溝遺構1基が確認された。これらの遺構からは、弥生土器のほか、鉄斧、刀子、鉄鏃、石鏃、勾玉、投弾、石庖丁、磨石、石皿、砥石などが出土した。

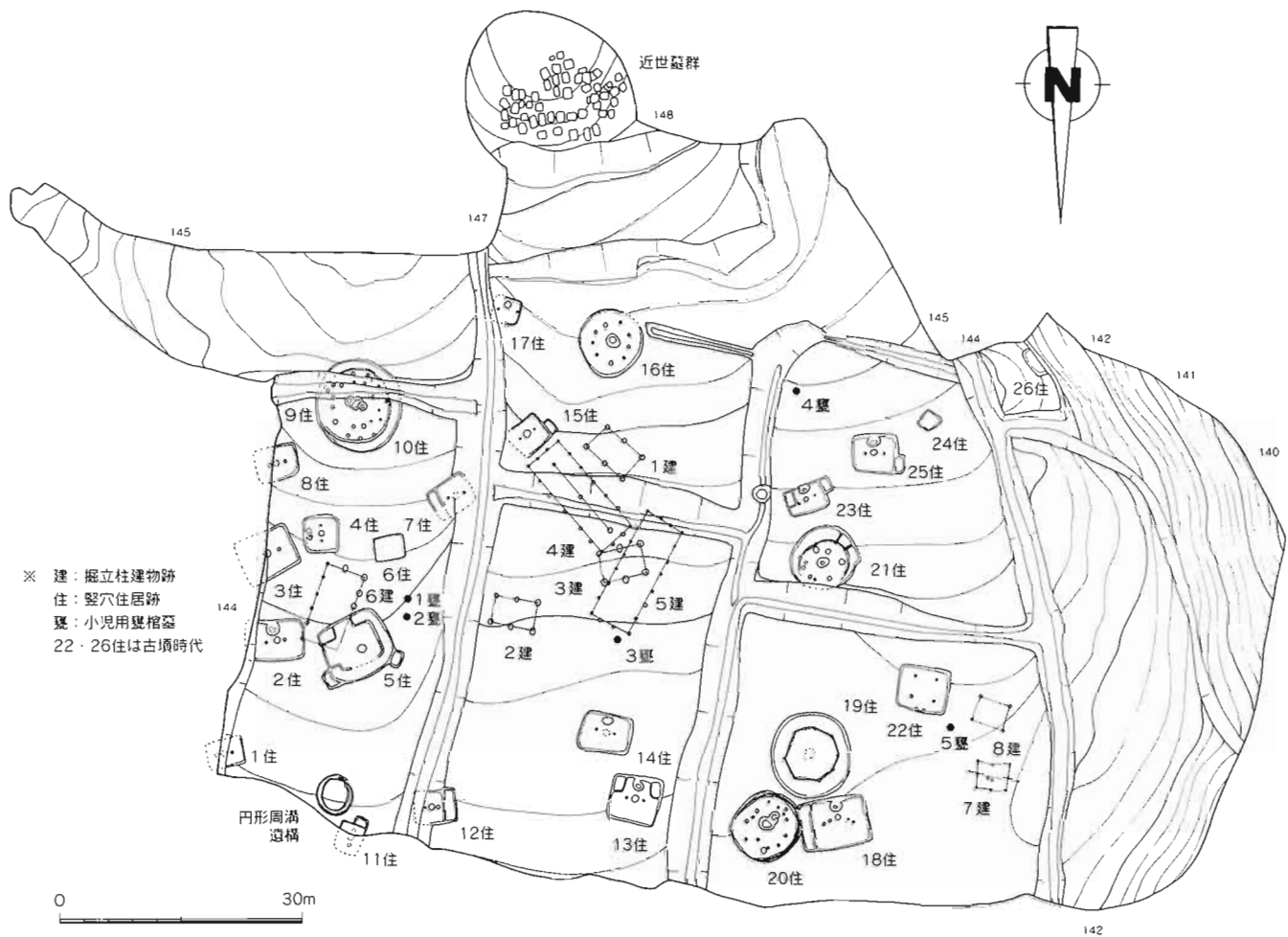
また古墳時代後期の堅穴住居跡も2軒確認された。眼下の長迫遺跡において、この時期の堅穴住居跡が多数出土していることから、この住居跡も長迫遺跡とほぼ同時期のものと推測される。

このほか、近世の木棺墓57基が確認された。棺そのものは残っていなかったが、人骨については全体の7割程度は残っていた。これらの墓からは棺に使用されたとみられる釘などが出土した。

まとめ

弥生時代の集落は、ほぼ20mの間隔を置いて、円形に堅穴住居を巡らせ、中心の広場には倉庫や大型建物を配置させていたようである。また西側丘陵端部には両側に棟持柱を持った小型の建物が2棟あるほか、北東隅には円形周溝遺構が1基配置されている。時期的には住居跡や建物の切り合いなどから3時期程度に分けることができそうである。ひとつの完結した丘陵を調査したことにより、当時の集落の配置がよくわかり、今後弥生時代の集落構造を考える上での貴重な資料となった。

また近世墓については、今後出土人骨の調査により、埋葬者の年代や性別、親族関係なども明らかになり、具体的な近世の埋葬方法が解明されることが期待される。(文責 行時)



祇園原遺跡主要遺構配置図(1/900)



祇園原遺跡全景（北方向）



19～21号竪穴住居跡（真上）



1～5号掘立柱建物跡（真上）

19号竖穴住居跡（南方向）



23号竖穴住居跡（東方向）



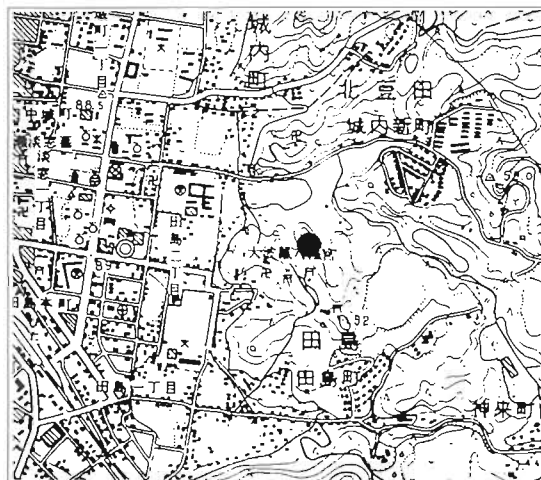
近世縄人骨出土状況



2 あかさこ 赤迫遺跡 (AKS)

—風倒木処理に伴う発掘調査—

所在地 大字北豆田字赤迫1730
開発面積 3,000㎡
調査面積 1,500㎡
調査期間 970410～970628
調査費 国庫補助
調査年次 2年次
遺跡の時代 古墳時代
遺跡の内容 墳墓
担当者 永田裕久



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地の東部、標高約150mの舌状に伸びる尾根上に位置している。平成2年度の台風災害による風倒木処理作業中に石棺材が露出したため調査が行われることとなった。

調査の概要

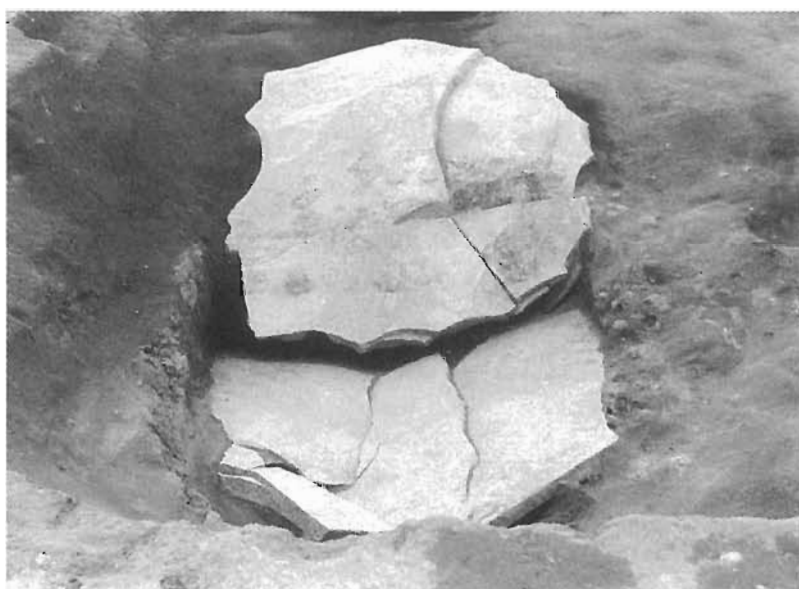
南北長約180mの尾根上において、6基の石蓋土坑墓が確認された。調査区の北端斜面上に位置する1号墓は、東西方向に主軸をとる。人骨の他、刀子・鉄鏃が副葬されていた。2号墓は、標高約150mの最も高所に位置しており、東西約2.6m×南北約3m、深さ約0.35mのほぼ正方形を呈する掘形が確認された。掘形のほぼ中心に南北方向に墓坑が掘られる。人骨の他、刀子・鉄鏃・玉類が確認されている。3号墓は、南北方向に主軸をとるもので、鉄刀が1本副葬されていた。4号墓の石蓋は植林作業中に確認され既に移動されていた。東側に頭位を向け、鉄剣・鉄鏃・刀子が副葬されていた。5号墓は、4号墓の南約20mにおいて確認された。石蓋は既になく西側に頭位を向ける。鉄刀・刀子・鉄鏃・勾玉が副葬されていた。6号墓は、調査区の南端に位置しており安山岩の板石が1枚すでに露出していた。東西約1.4m×南北2.5m、深さ約15cmの掘り方の中央に頭位を北側に向ける墓坑が掘られる。内部には赤色顔料のほか鉄刀・歯が数本確認された。

まとめ

今回調査された石蓋土坑墓は、出土している土器から古墳時代中期と思われる。この6基の墳墓群は、尾根上に切り合うことなくほぼ等間隔で構築されていることから尾根全体を墓地として占有していたものと思われる。また副葬品も豊富に保有しておりその被葬者像が注目される。



1号墓人骨出土状況（東より）



2号墓（南より）

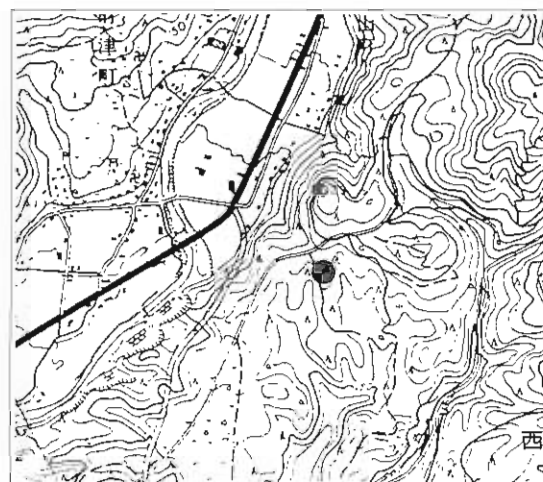


5号墓副葬品出土状況（東より）

3 葛原遺跡 (K Z H)

所在地 大字西有田字葛原1798-1
開発面積 17,400m²
調査面積 3,000m²
調査期間 960712~960810
調査費 原因者負担
調査年次 4年次
遺跡の時代 縄文時代
遺跡の内容 集落跡
担当者 行時志郎・永田裕久・森山敬一郎

—工場建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は、日田市の北部標高約170mを測る葛原台地上の東端、舌状に張り出した尾根上に位置している。台地上では今回の調査地点の西側に1つ谷を隔てた位置において弥生時代前期の上坑や古墳時代後期の竪穴式住居跡が確認されている。また周辺には葛原古墳等が点在している。

調査の概要

今回の調査では、主要遺構として竪穴式住居1棟・上坑41基が確認されている。

調査区の南端において確認された竪穴式住居跡は、東西約2.8m・南北約4.6m・深さ約0.2mの平面形は歪ながらも長方形を呈しており4本の柱穴を有する。その中心には炉と想定される焼土塊が確認されている。また、尾根上からは数多くの上坑が確認されているが、その時期や性格については出土遺物が希少なため不明なものが多い。ただし15・25・26号上坑の3基については、床面より柱穴が検出されており落とし穴としての機能が考えられる。

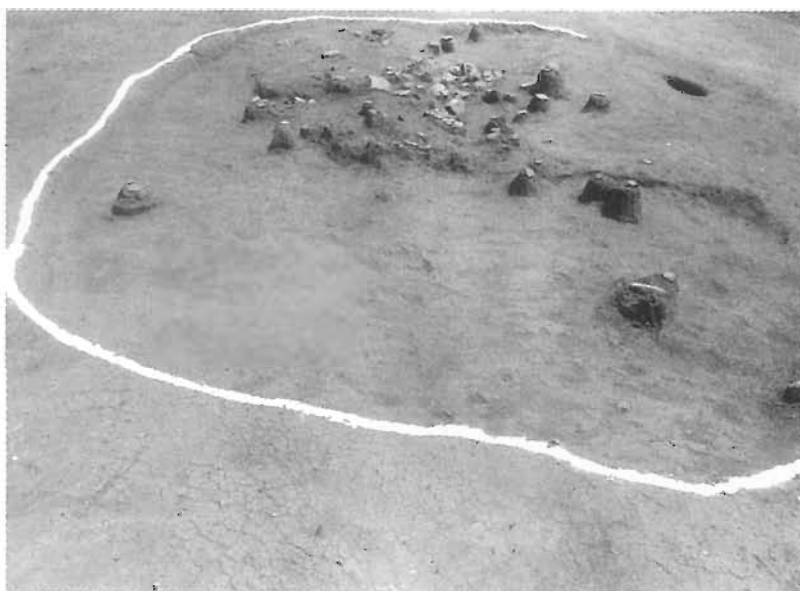
まとめ

今回の調査で確認された竪穴式住居跡は、その出土している土器から三方田式期の範疇に含まれるものと思われる。住居については1棟の検出であったが、尾根の先端にあたる一部分が調査区外となっておりそちらに若干の広がりを見せていたものと思われる。(文責 永田)

調査区全景（真上より）



1号竪穴住居（北より）



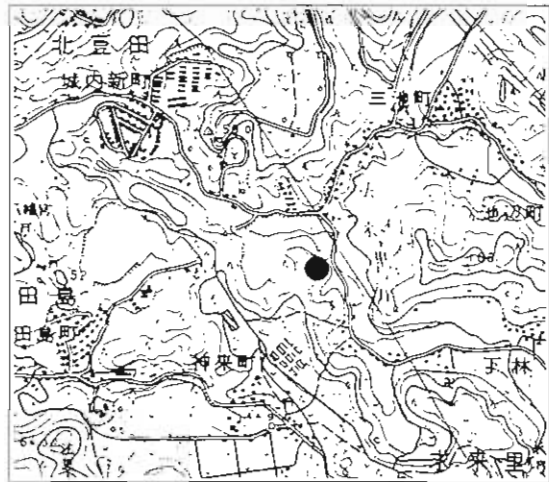
1号竪穴住居土器出土状況（北より）



4 ^{うまがた}馬形遺跡 (UMT)

—宅地造成に伴う発掘調査—

所在地 大字東有田字馬形991番地
開発面積 50,000㎡
調査面積 3,785㎡
調査期間 960906～970328
調査費 原因者負担
調査年次 1年次
遺跡の時代 弥生時代・古墳時代・古代
遺跡の内容 集落跡・墓地
担当者 永田裕久



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地の東部、有田川の支流である求米里川左岸の沖積地および丘陵上の広い範囲に位置している。この地域では、これまで大規模体育施設建設・市道拡幅・宅地造成等の開発が盛んに行われてきた。今回の宅地造成もその一環であり遺跡の周辺には有田塚ヶ原遺跡群・尾瀬遺跡等が点在している。

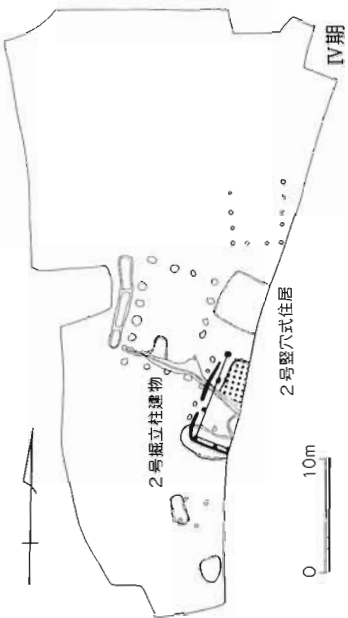
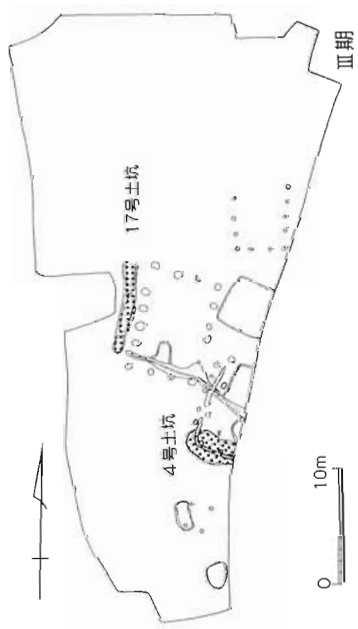
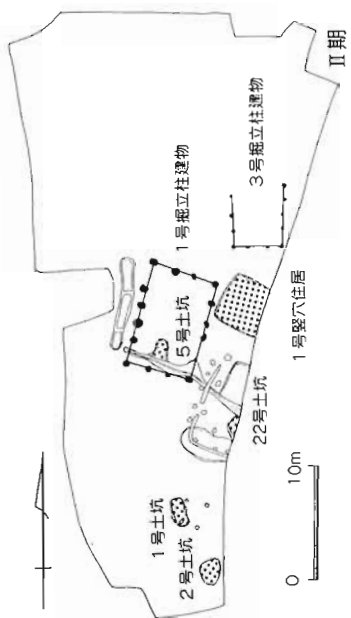
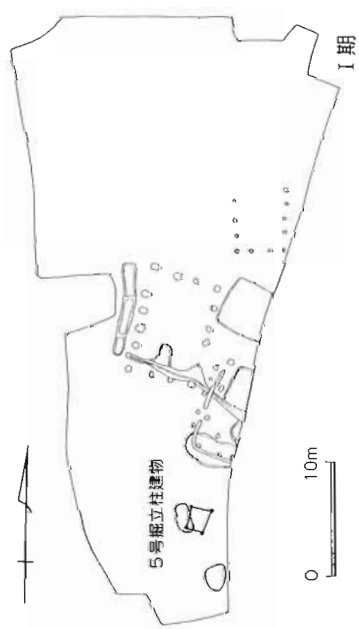
調査の概要

おもにⅡ・Ⅳ区についてその概略をまとめる。遺構は5期に区分することができる。

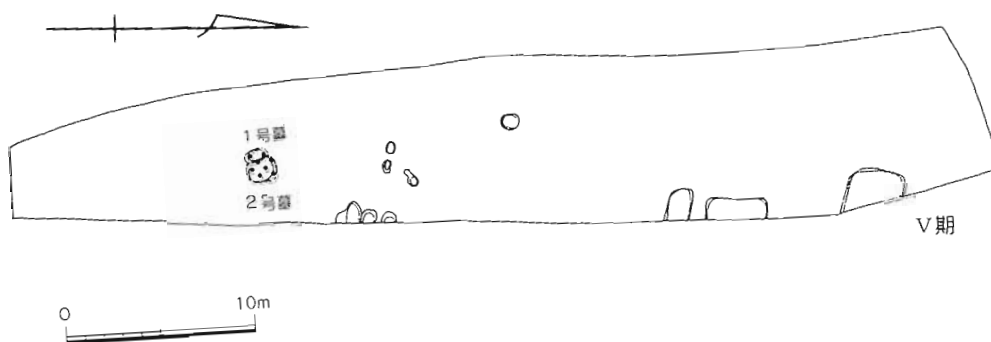
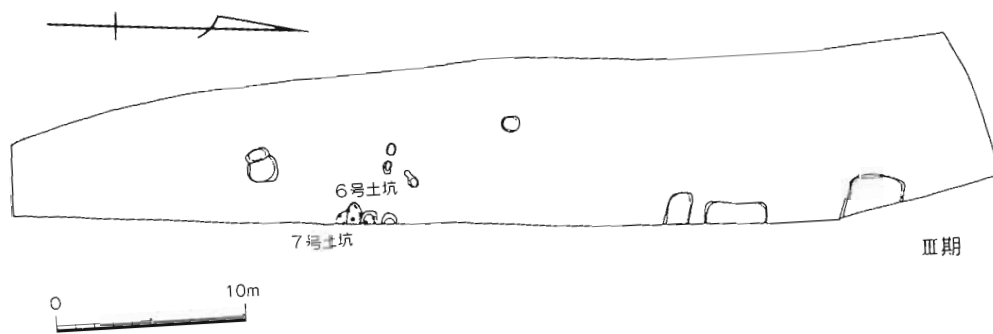
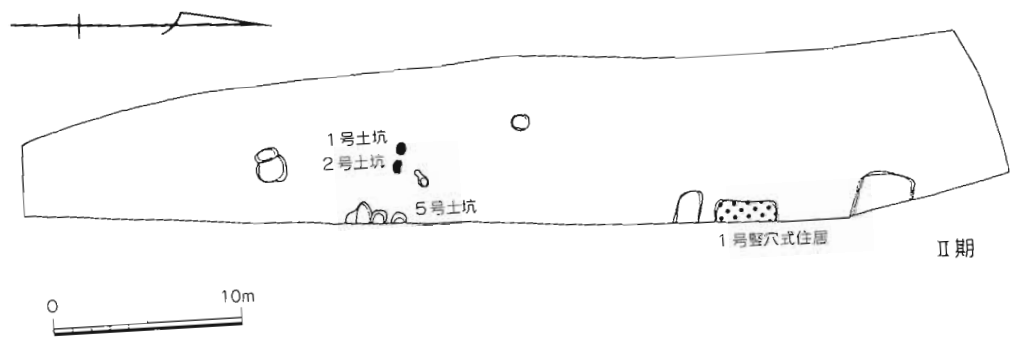
- Ⅰ期(弥生時代中期後半)／Ⅱ区において1間×1間の掘立柱建物が1棟確認されている。その柱穴からは跳上状口縁をもつ甕の破片が出土している。
- Ⅱ期(6世紀後半～7世紀前半)／須恵器坏の蓋と身が逆転する時期である。Ⅱ区では1号竪穴式住居、1・3号掘立柱建物、1・2・5・22号土坑、またⅣ区では1号竪穴式住居、1・2・5号土坑が確認されている。
- Ⅲ期(7世紀後半)／坏の蓋には、まだかえりが残るものでⅡ区の4・17号土坑、Ⅳ区6・7号土坑がこの時期にあたる。
- Ⅳ期(8世紀前半)／坏の蓋のかえりが消滅する時期である。Ⅱ区の2号竪穴式住居や2号掘立柱建物が確認されている。特に2号掘立柱建物には、並行に小溝が巡らせている。
- Ⅴ期(9世紀中頃～9世紀後半)／Ⅳ区で確認された1・2号墓がこの時期にあたる。2号が1号を切る。1号からは完形土師器坏2点及び鉄製毛抜き、2号からは完形黒色土器のほか須恵器・土師器坏・越州窯系青磁・刀子がそれぞれ破片ではあるが出土している。

まとめ

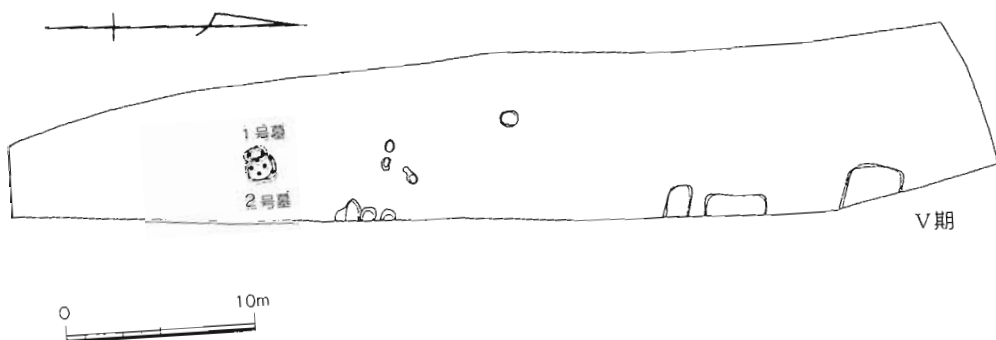
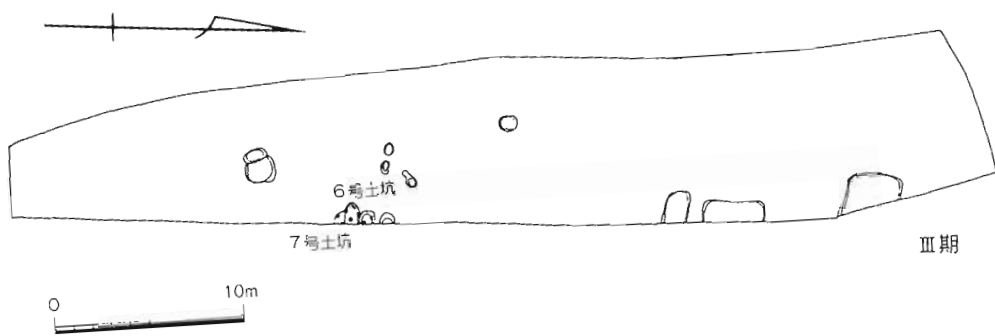
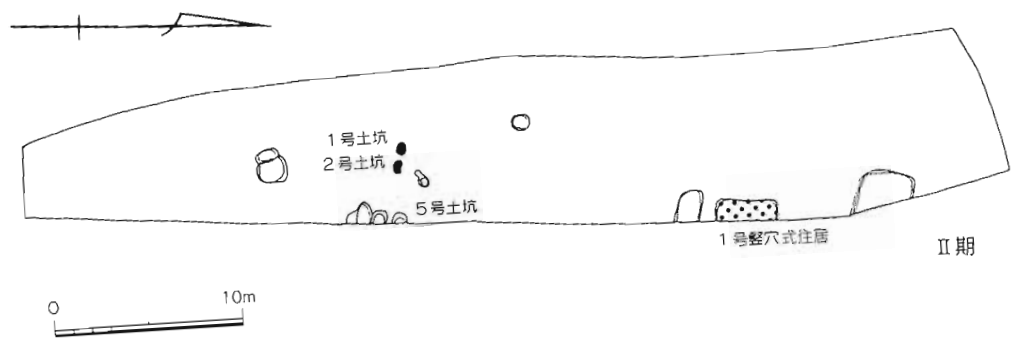
調査では弥生から古墳・古代にかけての多様な遺構が確認された。なかでもⅡ区の掘立柱建物群の性格やⅣ区の1・2号墓の被葬者等が今後の検討課題である。



馬形遺跡Ⅱ区遺構変遷図



馬形遺跡IV区遺構変遷図 (1/400)



馬形遺跡IV区遺構変遷図 (1/400)

Ⅱ区1号竪穴式住居（西より）



Ⅱ区1号掘立柱建物（西より）



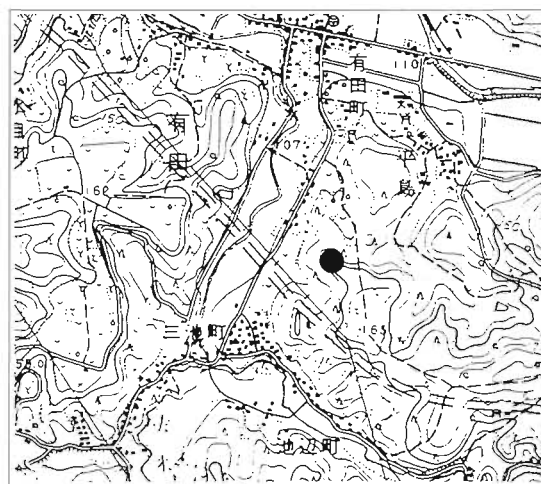
Ⅳ区1・2号墓（北より）



5 おこぎ 尾漕2号墳（OKG-2）

所在地 大字有田字尾漕1076ほか
調査期間 961220～970331
開発面積 (400,000m)
調査面積 1,800m²
調査費 原因者負担
調査年次 1年次
遺跡の時代 古墳
遺跡の種類 墓地
担当者 行時志郎・松下桂子
※（ ）はウッドコンビナート建設全体の開発面積

—ウッドコンビナート建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東部の求米里川沿いに広がる沖積地を望む丘陵鞍部に位置する。遺跡の北側の小谷には長迫遺跡があり、また小谷を挟んで南には5世紀末から6世紀初頭の横穴式石室を主体部とする尾漕古墳が存在する。

このほか、求米里川を挟んで対峙する西側丘陵上には、古墳時代中期に築造された中尾1・2号墳や大迫遺跡が存在する。

調査の概要

試掘調査では中心よりやや南側の位置より凝灰岩の石材を用いた蓋石が確認され、またその南には深さ約1mの古墳の周溝と見られる落ち込みが検出され、その内部からは高坏をはじめとする土師器が出土している。このことからまず全体の地形測量を行った後、機械により古墳の周囲を地山まで掘り下げ、他の遺構の存在の有無を知るための確認調査を実施した。その結果、周囲には他の遺構は検出できなかった。

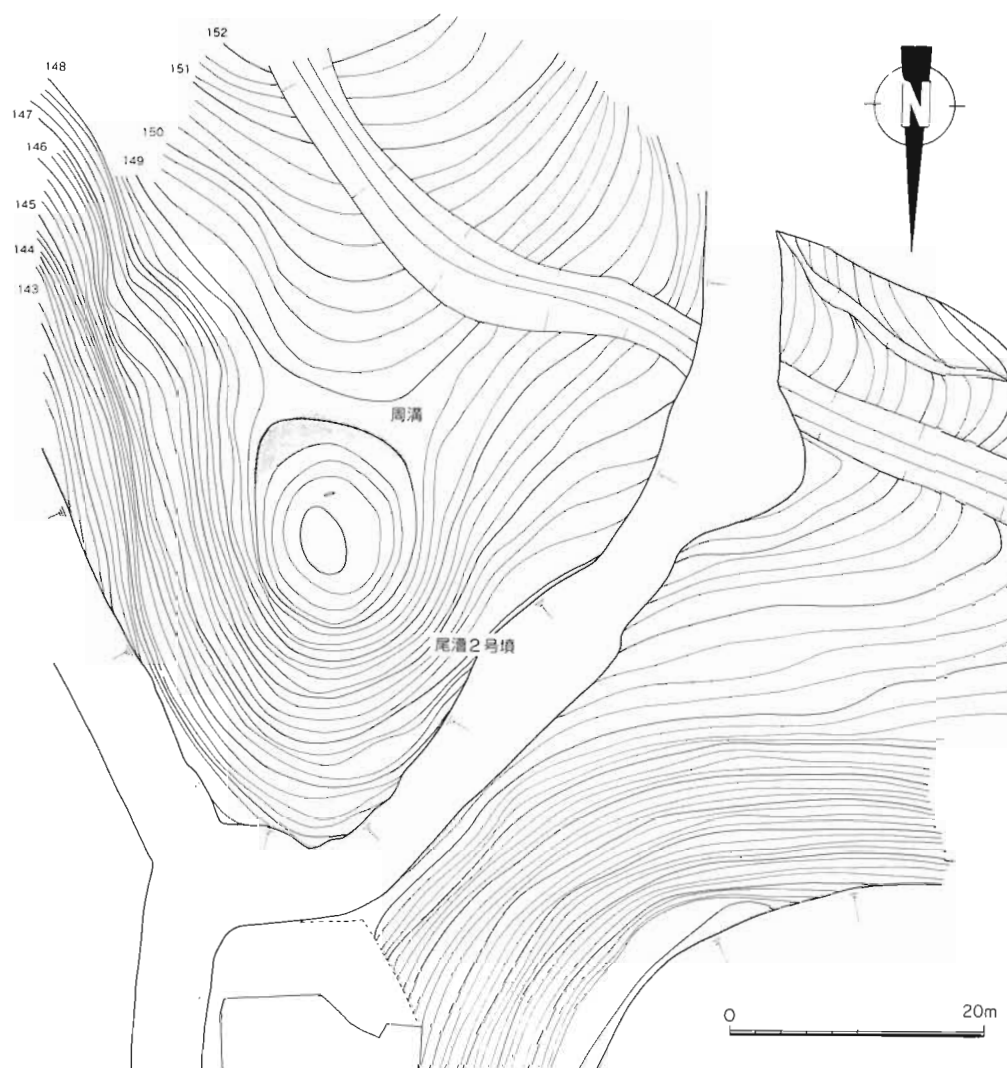
そこで調査は古墳1基に絞られ、再び中心位置から十字にトレンチを設定し、中心主体部と周溝の範囲の確認を行っていった。その結果、中心主体部は検出できなかったが、周溝については古墳の南側に尾根を分断するように半円形に巡らせていることが確認された。これによって古墳の規模は、直径約25mの円墳であることがわかった。

古墳の年代については、周溝内より出土した土師器の年代から、4世紀末から5世紀前半にかけてと推測される。

まとめ

遺物の時期からこの古墳は、市内でこれまでに発見されている古墳の中でも、小迫古墳や薬師堂山古墳と並ぶ地域でも古い時期の古墳であり、首長墓の発生の問題などを考える上で重要な資料となると考えられる。

(文責 行時)



尾澗2号墳周辺地形測量図 (1/600)

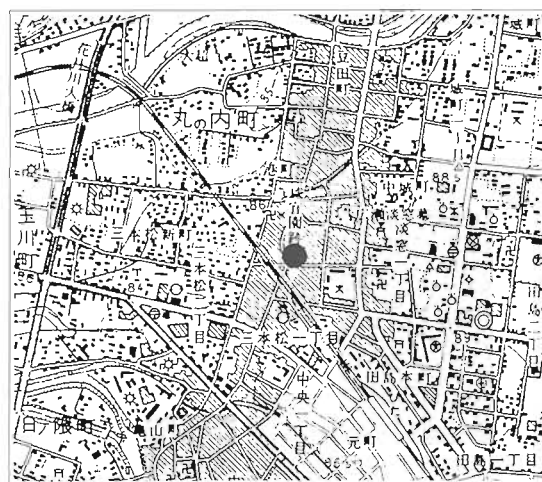


古墳測量風景

6 史跡咸宜園跡（KAG）

—史跡整備に伴う確認調査—

所在地 大字南豆田字中城
調査期間 961203～970331
開発面積 —
調査面積 130㎡
調査費 国庫補助
調査年次 5年次
遺跡の時代 近世～近代
遺跡の種類 塾跡
担当者 土居和幸



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

史跡咸宜園跡は市街地のほぼ中心、江戸時代に天領として栄えた豆田町の南側に位置する。咸宜園跡は文化14年に廣瀬淡窓が開いた私塾として知られ、平成7年7月23日に国史跡に指定されている。塾の最盛期には道を挟んだ東側に講堂・東塾・秋風庵、西側には南塾などの施設が立ち並び塾を構成していた。現在、史跡内には秋風庵、遠思楼、井戸といった建造物が現存している。

調査の概要

5年目にあたる今回の調査目的は、1. 遠思楼建物の当初位置の確認（1区）。2. 4次調査で確認された招隠洞建物の全容解明（2区）。3. 井戸西側の塀痕跡確認であった（3区）。

1区では遺跡の攪乱がひどく、遠思楼建物の遺構は確認できなかった。

2区では新たにカマドと根石を伴う柱穴などの遺構が検出された。カマドは南側の焚口の一部分が破壊されており、西側に径50cm円形、東側に一辺35cm方形に炭や焼土の広がりが見られた。柱穴は根石を伴うものが2つ、堀方のみが1つである。前者は30cm、後者は径45cm前後。いずれも、床束を支える束石に関連すると思われる。

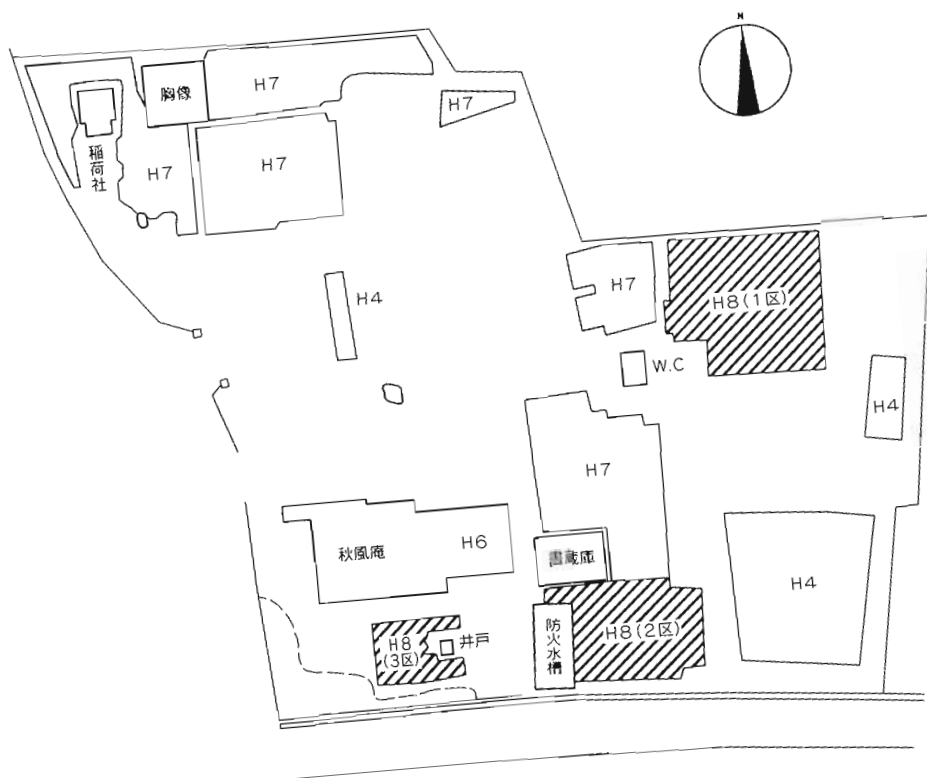
3区では塀の痕跡は確認できなかった。

まとめ

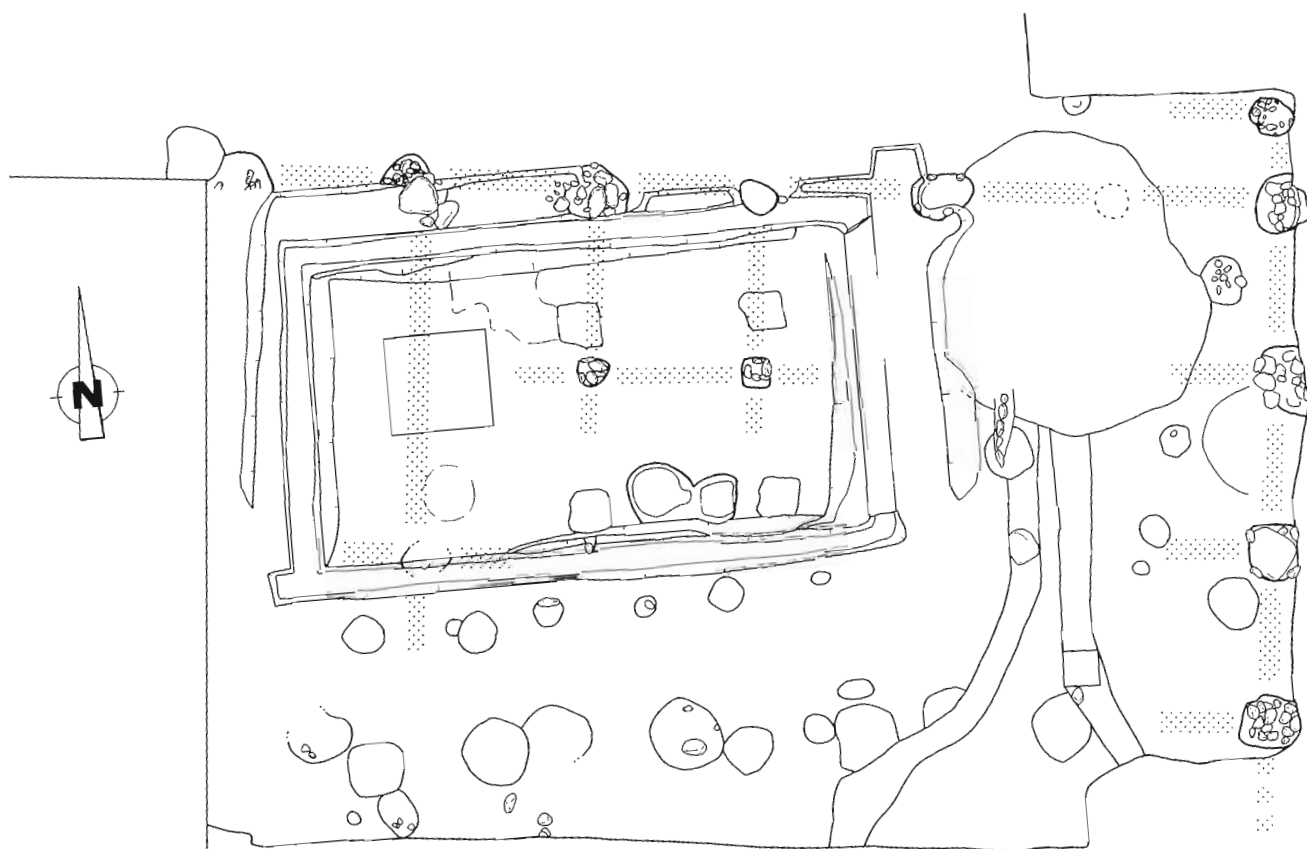
2区で発見されたカマドについては、廣瀬淡窓の自叙伝『懷舊樓筆記』によると天保3年招隠洞新築の記事に「飯ヲ炊ク」ところ「一畳」という記述があり、招隠洞に伴うものと考えられる。柱穴についても、招隠洞解体後は遠思楼しか建造物はなく、柱穴の位置が遠思楼と一致しないことから招隠洞建物に付随するものと推定される。今回、招隠洞の全容確認はできなかったが、現状での規模は東西6間（11.1m）+α？、南北3間（6.5m）+α？で、建物のほぼ中央にカマドが設置されていたことが判明した。



2区全景



調査区位置図

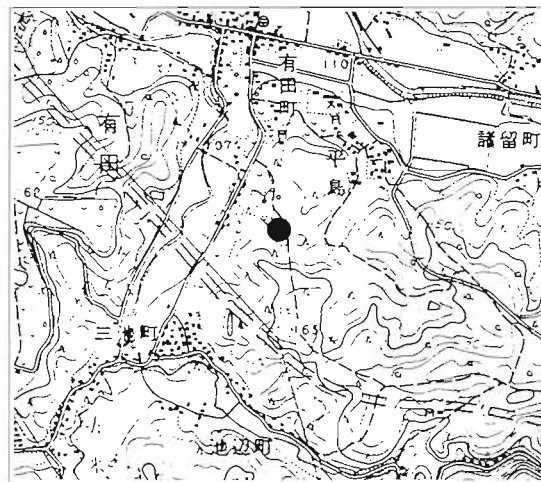


2区遺構配置図 (1/80)

7 ^{ながさこ} 長迫遺跡 (NSK)

所在地 大字有田字長迫1196ほか
 調査期間 961220～970331
 開発面積 (400,000㎡)
 調査面積 9,000㎡
 調査費 原因者負担
 調査年次 1年次
 遺跡の時代 古墳・奈良・平安・中世
 遺跡の種類 集落
 担当者 行時志郎
 ※ () はウッドコンビナート建設全体の開発面積

—ウッドコンビナート建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東部の求米里川沿いに広がる沖積地から、南部丘陵上に入り込む2つに分岐した小谷一带に位置する。遺跡のすぐ南には古墳時代中期に築造された尾漕2号墳が、また北には祇園原遺跡が、谷から開けた沖積地一帯には、弥生時代から古墳・古代・中世にかけての集落跡が確認された尾漕遺跡などがある。

調査の概要

試掘調査では遺構検出面が大きく2つの層に分かれて存在していると見られたため、最初に谷を横断するトレンチを入れ堆積土の状況を見ることにしたが、深さ1m程度で、古代の包含層（暗茶褐色土）があり、この面の下は黒色土の遺物が確認されない自然堆積土であった。古代・古墳時代の遺構検出面は、この層の上面であることから、遺構検出作業はこの面で止めることにした。また黒色土層の下は茶褐色の層となっていたが、黒色土上面で遺構の確認されない場所については、黒色土を取り除き、茶褐色土の面まで遺構検出作業を平行して行っていた。

遺構検出作業の結果、竪穴住居跡と見られるものが約80軒程度確認された。時期的には古墳時代後期と奈良時代にわかれている。

遺跡は2つの谷に分かれているため、南側の広い谷をA地点、狭い谷をB地点とし、今年度はA地点から遺構の掘り下げ作業を開始した。

まとめ

2つに分かれた谷の奥地に古墳時代後期と奈良時代の遺構がまとまって存在していることが確認された。A地点では古墳時代後期の竪穴住居跡が一边約10mを測る大型住居を中心に一边5～6mの中型住居、一边3～4mの小型住居がその周辺に配置されているのがわかる。さらに同じ谷の上部では、遺構は全く存在せず、多数の小さい柱穴がみられることから、畑作など生産地としての土地の使い分けがなされている可能性がある。またB地点の高い位置に存在する住居跡からは、鉄滓（鍛冶滓）が出上し、農工具を集落内において、特定の場所で生産していた様子がうかがわれた。

表土剥ぎ作業風景



A地点全景



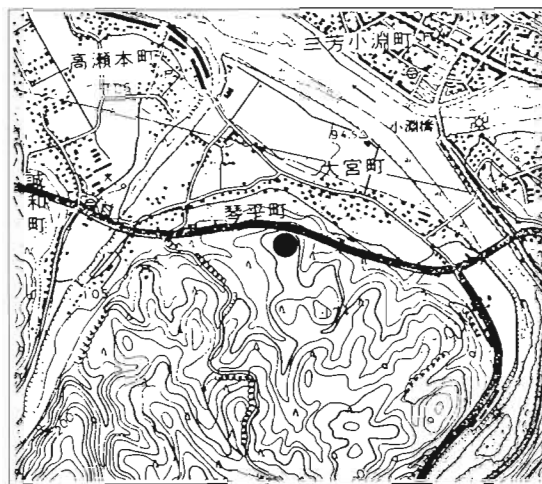
B地点全景



8 くちがばる 口が原遺跡 (KGB)

—サッポロビール新九州工場建設に伴う発掘調査—

所在地 大字高瀬字下木ノ上6951番地ほか
調査期間 970210～970331
開発面積 200,000㎡
調査面積 9,000㎡
調査年次 1年次(次年度継続調査)
遺跡の時代 縄文時代～近世
遺跡の種類 集落跡
担当者 土居和幸・森山敬一郎・吉田博嗣



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

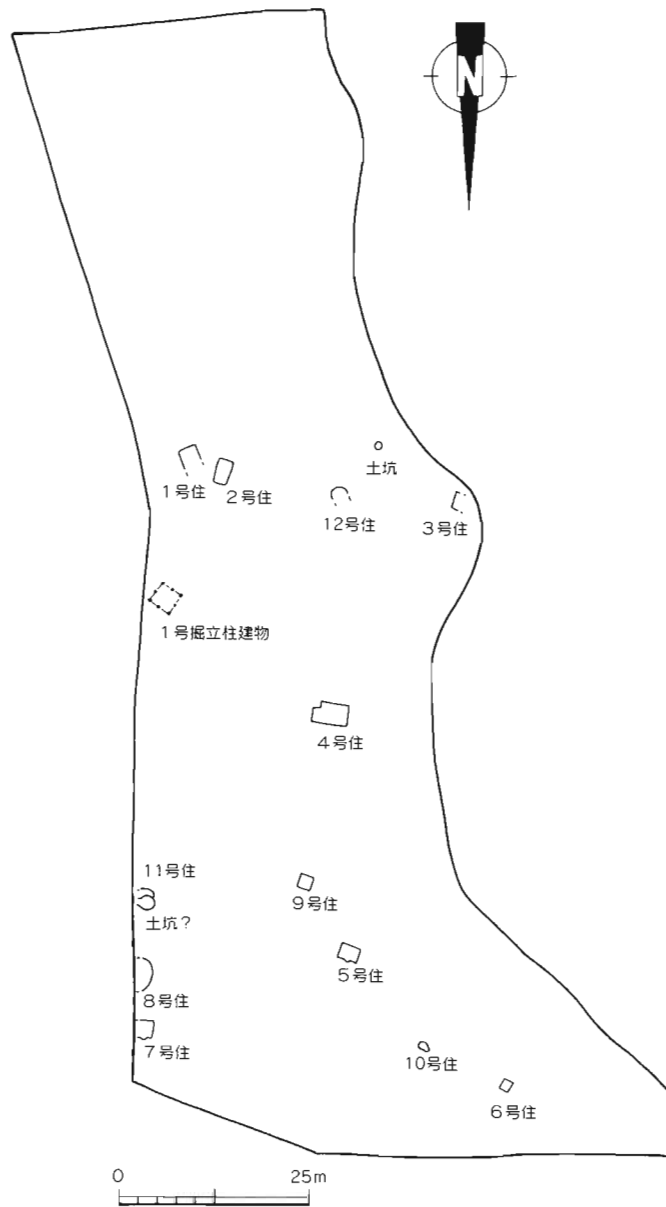
遺跡は、日田盆地の南東、三隈川の南側で大山川と高瀬川に挟まれた標高約155mの台地上に位置している。周辺には多くの遺跡が確認されているが、西側の台地上に所在する上野遺跡は市内では代表的な遺跡のひとつである。

調査の概要

機械による表土除去作業ののち、作業員で遺構検出作業を行った。調査は次年度も継続予定であるが現時点で明らかになっている内容は以下のとおりである。遺構検出の結果、竪穴住居跡12軒・掘立柱建物跡・土坑・柱穴などの遺構が確認された。遺物は、黒曜石・土師器・須恵器・陶磁器等が出土している。時期を特定できる遺構は、4号住居跡より出土した甕、高坏から古墳時代初頭～前期に、3号住居跡より出土した須恵器の蓋などから奈良時代(8世紀中頃)に比定できるものである。その他、カマドを有している竪穴住居跡が2軒確認されている。

まとめ

周辺の台地と比べると遺構の密度はさほどではないものの、古墳時代～奈良時代にかけての集落が遺跡の中心となりそうである。また、調査区中央に柱穴が集中しており建物群が想定される。調査は平成9年度も継続して行う予定である。(文責 吉田)



口が原遺跡主要遺構配置図 (1/1,000)



調査区全景 (南から)

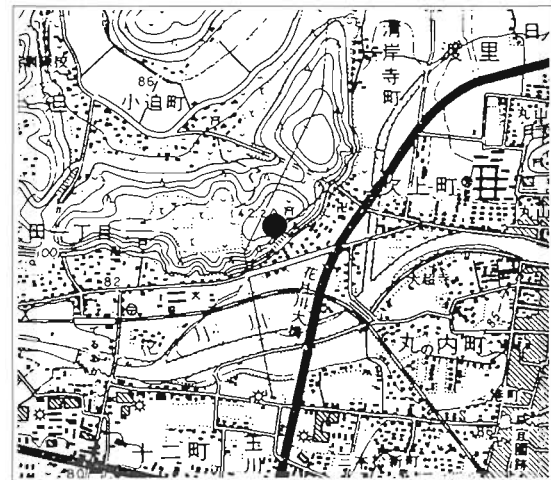


調査風景

9 吹上遺跡 (F K A)

—遺跡の範囲確認調査—

所在地 大字小迫字吹上原
調査期間 970304～970328
開発面積 —
調査面積 150m
調査費 国庫補助
調査年次 7年次
遺跡の時代 弥生時代
遺跡の種類 集落・墓
担当者 土居和幸



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地北部の盆地内が見わたせる台地上に存在する。吹上原台地と呼ばれる標高約140mの独立台地は上面観が「L」字形をなしており、遺跡はこの台地の東側に広がる。これまでに、6次の調査が行われ、弥生時代前期後半から古墳時代前期までの竪穴住居跡・溝・土壇・甕棺墓・石棺墓など多くの遺構が確認されている。とくに、平成7年度の6次調査では弥生時代中期後半の甕棺墓8基、木棺墓3基で構成する墳墓群が発掘された。しかも、甕棺墓や木棺墓からは、銅剣・銅戈・貝輪・玉類など豊富な副葬品が出土し注目を集めた。

調査の概要

(1)調査目的

今回の調査は平成7年度の6次調査の成果をうけ、吹上遺跡の保存対策を検討する目的で、遺跡の全容把握のための確認調査として実施した。1年目にあたる調査は6次調査での墓域の範囲を特定することに主眼を置き、6次調査地点の北側を調査地点とした。

調査では、4ヶ所のトレンチと8ヶ所のグリットを設定し、遺構の確認を行った。

なお、調査では遺構の掘り下げは行わずに、遺構面までの検出にとどめている。

(2)検出遺構と出土遺物

各調査区で検出した主要な遺構と出土遺物をまとめる。

1・3トレンチでは土壇7基、柱穴6個、溝1条を確認した。このうち、溝は近世以降の所産。3号土壇は、検出面での規模が長軸3m以上、短軸1.5m前後を測る。一部に炭や焼土がみられる。この土壇からは、図示した甕(3)や打製石斧(4)などが出土している。甕(3)は胴部から口縁部にかけては内傾し、逆し字形の口縁をなす。口縁下には1条の突帯が巡る。胎土は石英・角閃石・微砂を含む。打製石斧(4)は、粘板岩製。厚みがあり、一部自然面を残す。現存長9.1cm、現存幅5.7、厚さ0.8cmを測る。このほか、鋤先形をなす壺の口縁部などが出土している。4号土壇は、検出面での規模が長軸1.2m以上、短軸0.74m前後の不定形な土壇である。磨製石斧が出土している。

2トレンチでは小竪穴1基、土壇4基、柱穴6個、溝?1条を確認した。1号小竪穴は調査区南側隅で検出した。溝?と重複しているようである。遺物には図示した甕(5)が出土した。甕は口縁部が如意状



吹上遺跡 7次調査地点位置図 (1/5,000)

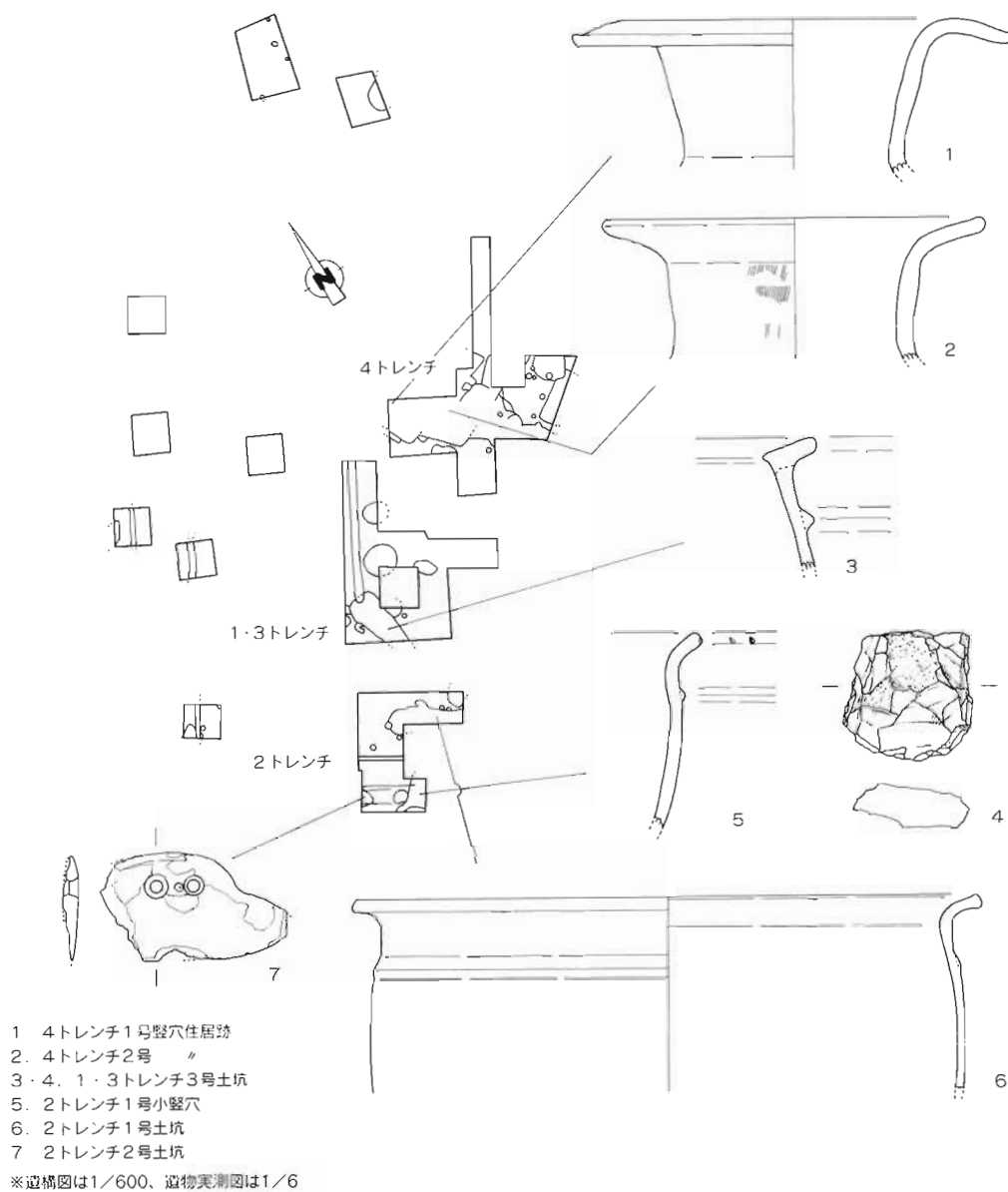
に外反し、口縁端部下半に刻み目を施す。また、口縁下には1条の突帯を巡らせる。外面はタテハケ後ナデ仕上げ。胎土に石英・角閃石・粗砂を含む。このほか、上げ底の甕の底部などが出土している。1号土壙は検出面での規模が長軸4 m以上、短軸1 mと細長い。この土壙からは、図示した甕(6)が出土した。口縁部は如意状に大きく外反し、口縁下に1条の突帯を巡らせる。口径33.2 cm。胎土は石英・角閃石・粗砂を含む。2号土壙は調査区西側で検出した。トレーチャーにより一部壊されている。遺物には図示した石庖丁(7)が出土した。石庖丁は輝緑凝灰岩製。径0.7～1.2 cmの穿孔2つを穿つ。現存長9.1 cm、現存幅5.7、厚さ0.8 cmを測る。

4トレンチでは竪穴住居跡や小竪穴を数基、土壙数基、柱穴8個を確認した。遺構の密集度が高い。1号竪穴住居跡からは図示した壺(1)が出土した。口縁部は「く」字形に大きく外反し、垂れ気味となる。口径23.2 cm。胎土は石英・角閃石・粗砂を含む。2号竪穴住居跡からも壺(2)が出土した。口縁部は「く」字形に外反する。外面はタテハケ後ナデ仕上げ。口径20.2 cm。胎土は石英・角閃石・粗砂を含む。このトレンチからは上げ底や平底の底部、器台、砥石などが出土している。

1グリットでは小竪穴1基、土壙?1基、柱穴1個、溝1条を確認したが、溝は近世以降の所産である。一括遺物に口縁部が逆し字形の甕の破片が出土している。2グリットでは土壙1基、溝1条を確認したが、溝は近世以降の所産である。3グリットでは、溝1条を確認したが、溝は近世以降の所産である。4～6グリットでは、遺構の検出はなかった。7グリットでは土壙?1基を確認した。8グリットでは柱穴4個を確認した。

まとめ

今回の調査では、生活遺構が検出された。遺構の時期については土器の特徴から、1・3トレンチ3号土壙が弥生時代中期前半、2トレンチ1号小竪穴・1号土壙が弥生時代前期末～中期初、4トレンチ1・2号竪穴住居跡が中期末～後期初に位置づけられる。7次調査地点周辺では過去に数回の調査が行われ、1・3次の調査では弥生時代前期末～中期初の袋状貯蔵穴群や中期末～後期初の竪穴住居跡などが確認されている。このように、7次調査での遺構の時期や内容は、これまでの調査事例と類似した様相を示す。ただし、遺構の密集度については、台地中央付近に比べ縁辺部の方が高くなる傾向にある。



吹上遺跡7次調査地点の位置図と出土遺物実測図

また、主目的であった6次調査での墳墓群の墓域は確認できなかった。このことは、墳墓群から北へ約20m離れた位置は墓域に含まれていないことになる。6次調査での墳墓群の空間がどの範囲までなのか、今後の周辺調査に期待したい。

註) 村上久和編『吹上遺跡』Ⅰ 日田市教育委員会 1980年

上居和幸編『吹上遺跡』日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅰ 日田市教育委員会 1986年



1・3トレンチの完掘状況（北から）



2トレンチの完掘状況（東から）

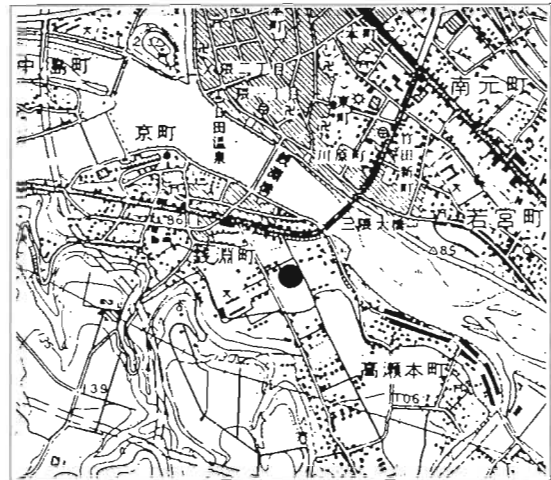


4トレンチの完掘状況（東から）

10 ぜにぶち 銭淵遺跡

—宅地造成に伴う試掘調査—

所在地 大字高瀬字小柳269-5ほか
調査期間 960418
開発面積 992㎡
調査面積 30㎡
調査費 国庫補助
遺跡の時代 —
遺跡の種類 —
担当者 行時志郎



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地南部の河岸段丘上に位置する。周囲には同一段丘上の北側先端部に5世紀代の竪穴式石室を主体部とした姫塚古墳や同じく南東部には中世の五輪塔や板碑などが存在する永平寺跡がある。

試掘調査は、機械により4ヶ所のトレンチを設定し遺構の確認調査を行った。その結果、2本のトレンチより径10~20cm程度の杭あるいは柱穴とみられる遺構がわずかに検出され、また他のトレンチでは水田盤土下は砂礫層で遺構は検出できなかった。調査区内より遺物の出土はなかった。



試掘調査状況

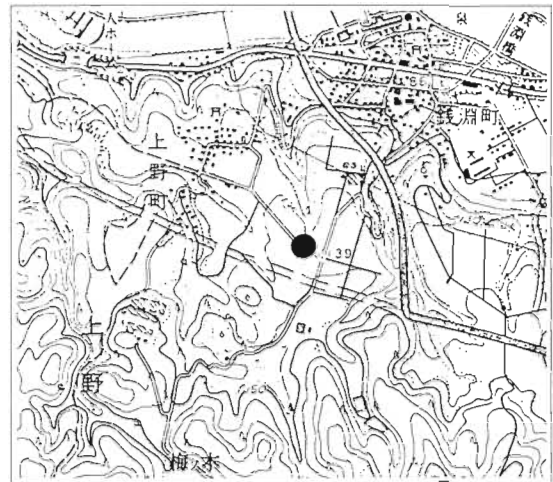


トレンチ完掘状況

11 うえの 上野第1遺跡 (UEN)

—工場建設に伴う試掘調査—

所在地 大字上野字東原199-2ほか
調査期間 960712~960912
開発面積 200,000m²
調査面積 600m²
調査費 国庫補助
調査年次 —
遺跡の時代 旧石器~近世
遺跡の種類 集落跡
担当者 土居和幸



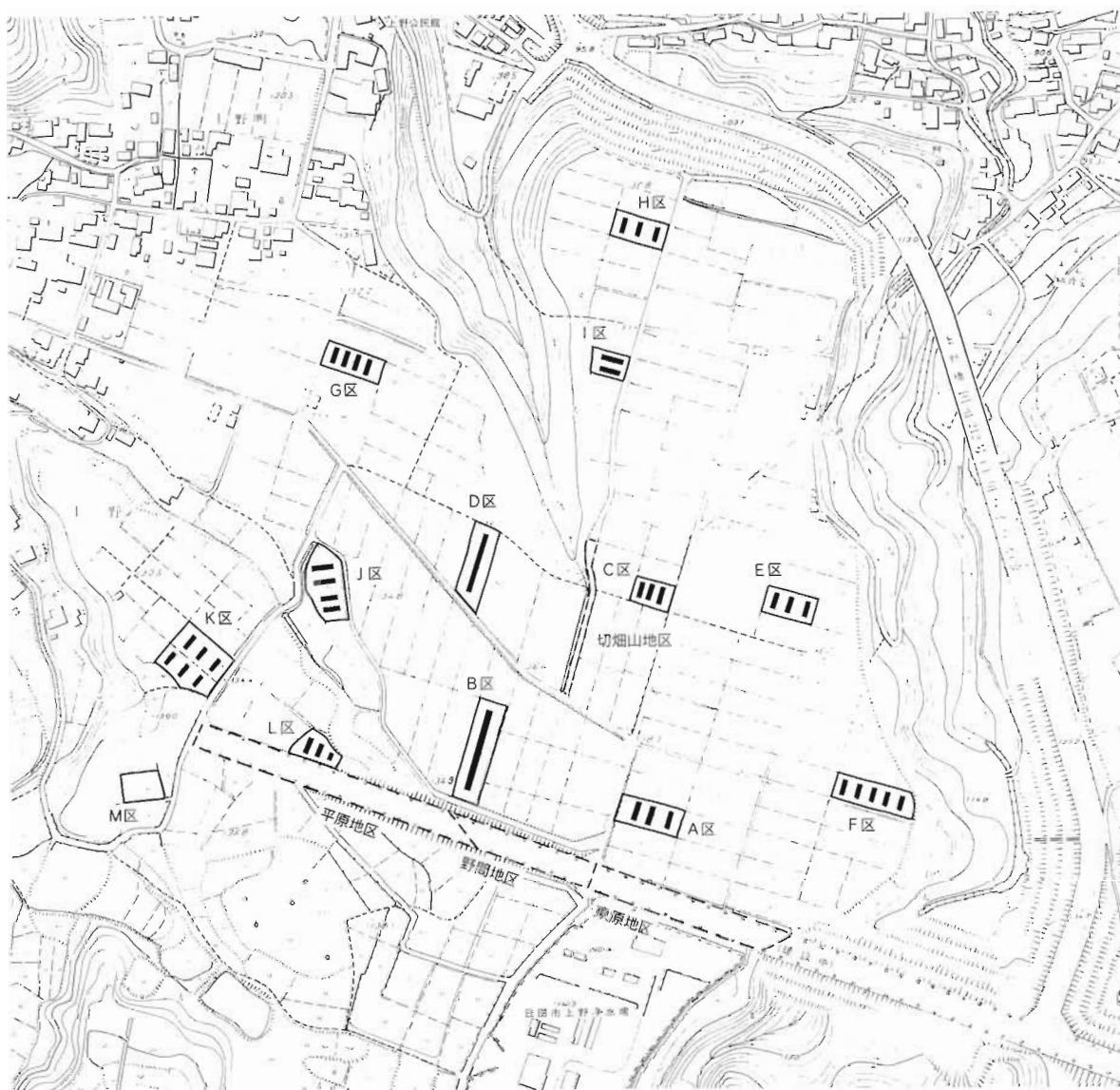
遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地南部の標高約135mの台地上に存在する。これまでに数次の調査が行われており、旧石器時代から奈良時代にかけての遺構や遺物が発見されている。なかでも、野間・平原地区からは、奈良時代の大型掘立柱建物や竪穴住居跡、道状遺構などが多数発掘され、転用硯や「豊馬豊馬」と刻まれた刻書石製品などの文字資料が出土している。

調査の概要

- A区／東側トレンチで一直線上に並ぶ柱穴が発見され、建物2棟が存在しそうである。柱穴の径は18~30cm。1棟の柱間は1.6m、もう1棟は1.8~2m。主軸はほぼ南北方向。一括遺物に高台付きの坏身(11)が出土。この調査区では須恵器片の出土が目立つた。
- B区／遺構は認められず、一括遺物に楕円押型文土器や弥生土器などが出土している。
- C区／中央トレンチで、柱穴2個を確認できた。時期は不明である。遺物はほとんどない。
- D区／溝1条、小竪穴3基、土壇3基、柱穴26個、小児用甕棺墓1基、焼土塊2ヶ所が確認できた。小児用甕棺墓は口縁部が逆し字形をなし、口縁下に1条突帯を巡らす甕2個を組み合わせている。扁平打製石斧などの出土もある。
- E区／この調査区では遺構は検出できなかった。一括遺物に姫島産の石鏃などがある。
- F区／溝1条が確認できた。時期は不明だが、上面埋土から摩滅した高台付きの坏身が出土。
- G区／溝1条、小竪穴2基、土壇16基、柱穴40個などが確認できた。溝は埋土の状況から中世期。土壇からは石剣(7)や土師器の坏(12)などが出土。(7)は茎を有す。残存長6.2cm、残存幅3.7cm。(12)は底部糸切り。口径12.2cm、器高2.6cm、底径6.3cm。一括遺物には厚みのある口縁部が如意状に外反し、口縁下に1条の沈線が巡る甕(5)や、口縁部が上外方に大きく開き、口縁端部が凹む壺(6)がある。前者は口径30.9cm、後者は口径16.8cm。このほか口縁部が逆し字形で、口縁下に1条の突帯を巡らす甕や白磁などが出土している。
- H区／台地北側にあたる。縄文時代早期の包含層、小竪穴1基、土壇5基、柱穴4個、溝1条が確認できた。包含層は中央トレンチで確認できたもので、楕円押型文土器が出土し、集石1つが検出された。小竪穴は東側トレンチで確認され、一辺2.8mの方形プランと考えられる。小竪穴上面からは土師器



調査区位置図 (1/5,000)

の坏(8)が出土している。(8)は、丸底気味の底部から屈曲して、内湾する口縁となる。口径15.7cm、器高3.5cm。(9)は、口縁部がわずかに内湾する。一括遺物には図示したチャート製の石鏃(2)や染付けなどがある。

I区／上層10基、柱穴13個、溝2条が確認できた。一括遺物に2次加工剥片や染付けなどがある。

J区／上層1基、柱穴3個が確認できた。一括遺物には図示した黒曜石製の石鏃(3)や、サイドブレイド(4)のほか、縄文時代晩期の浅鉢や染付けなどがある。

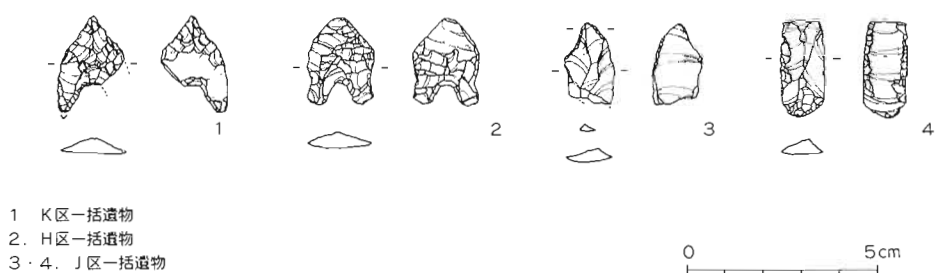
K区／上層9基、柱穴6個が確認できた。一括遺物に図示した黒曜石製の石鏃(1)や、口縁部が逆し字形をなし、口縁下に1条の突帯を巡らす甕などが出土している。

L区／遺構は認められなかったが、一括遺物に図示した坏蓋(10)が出土している。

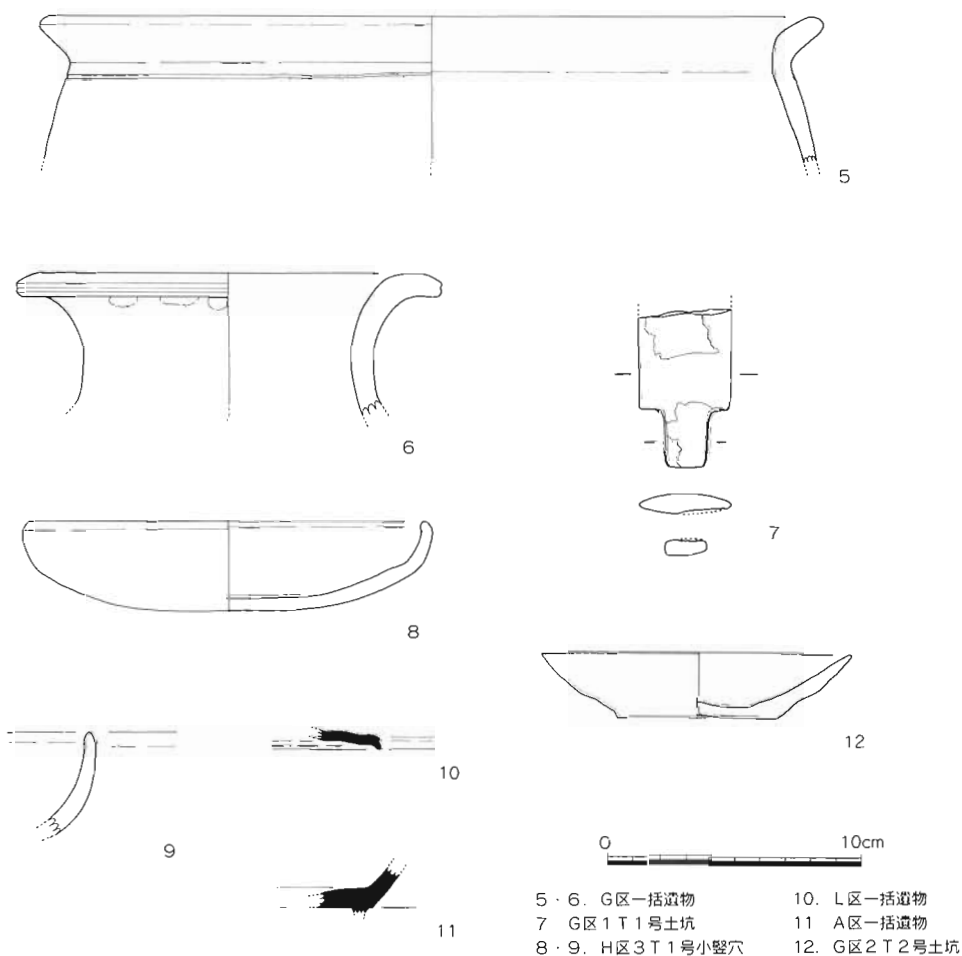
まとめ

以上の試掘調査結果を、以下箇条書きにてまとめる。

1. H区周辺に楕円押型文土器を主体とする、縄文時代早期の包含層が存在する。また、J区など台地上には、縄文時代晩期の包含層も存在すると考えられる。



出土遺物実測図1 (1/2)



出土遺物実測図2 (1/3)

2. D・G区といった台地縁辺部には、土壙や小児用甕棺墓といった遺構が検出されたことから、弥生時代前期末から中期前半代の集落が存在すると考えられる。
3. A区周辺には、東原地区で調査された奈良時代の集落に伴うと考えられる建物群が広がる。また、H区周辺においては小竪穴、F・L区では須恵器の出土があることから、密ではないにしろ、台地上には奈良時代の遺構が点在しているようである。
4. G区周辺には、14世紀前半代の上師器の坏が出土した土壙や溝があることから、中世期の遺構が存在する。

(参考文献) 行時志郎編『土野切畑山遺跡』日田市教育委員会 1992年

田中裕介編『土野第1遺跡』『一般国道210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅳ』大分県教育委員会1993年



D区1トレンチ (南から)



D区1トレンチ小児甕棺墓



G区1トレンチ (南から)



H区1トレンチ (北から)



H区2トレンチ (手前は集石／北から)



H区2トレンチ隋円押型文土器出土状況



H区3トレンチ (手前は小竪穴／南から)

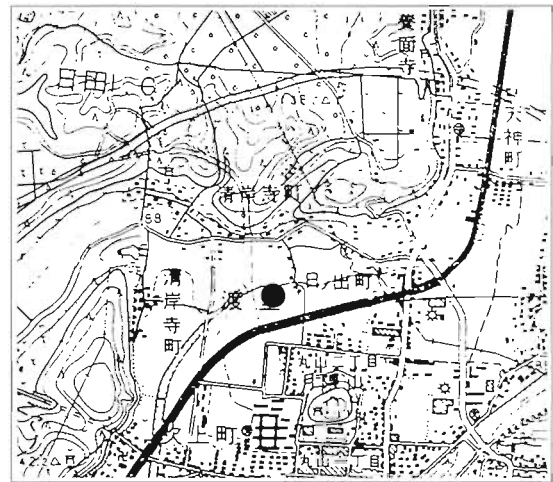


I区1・2トレンチ (東から)

12 日田条里^{しもせいで}下瀬井手地区

—商業店舗建設に伴う試掘調査—

所在地 大字渡里字下瀬井手97-1
 調査期間 961023
 開発面積 12,000㎡
 調査面積 240㎡
 調査費 原因者負担
 遺跡の時代 —
 遺跡の種類 —
 担当者 永田裕久



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地の北部、花月川左岸に広がる沖積地に位置している。沖積地一帯は日田条里の範囲内であり、遺跡の西側台地上には吹上遺跡、北側台地上には小迫辻原遺跡・草場第2遺跡・山田原遺跡等の集落及び墳墓遺跡が点在している。開発予定区域内は、南東側が周囲に比べて1 m程度高く遺構の存在が想定された。

調査は、開発予定区域内に12本のトレンチを設定して行った。結果、大半のトレンチは水田面下に河原石の広がる礫層や砂層が認められた。南東側の高い場所についても同様な結果でありこの周辺一帯が花月川の氾濫原であったことが想定された。遺物については弥生土器や近世陶磁器類が数点出土しているが遺構は確認されていない。



調査区遠景

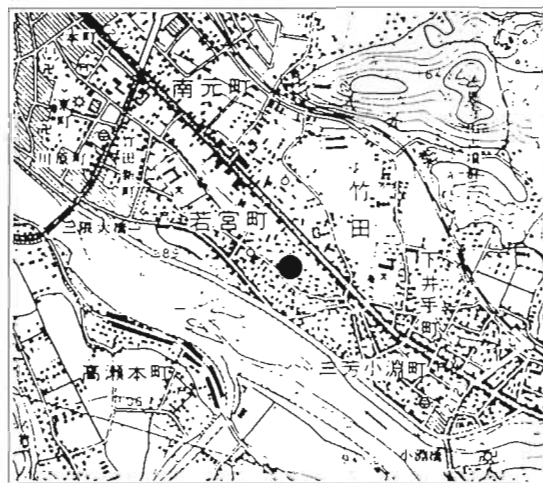


試掘調査状況

13 やなぎのもと 柳ノ本遺跡

—宅地造成に伴う試掘調査—

所在地 大字竹田字松伏1217-1
調査期間 961030
開発面積 1,500㎡
調査面積 30㎡
調査費 原因者負担
遺跡の時代 —
遺跡の種類 —
担当者 永田裕久



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は三隈川の左岸の沖積地に位置している。周辺には、弥生から中世にかけての会所宮遺跡、ガランドヤ・穴観音とともに6世紀の装飾古墳である法恩寺山古墳群が位置している。遺跡の北側及び東側には水田が広がっており、調査区はその水田より1m程高い位置にあたる。調査は既存建物等の関係から開発区域に南北に1本のトレンチを設定して掘り下げ作業を行った。

結果、1m程の高まりは後世の埋め立てであり、周囲に広がる水田と同レベルで黄褐色の盤土を確認することができた。その下約20cmでもう1枚水田面を確認し、さらに下約50cmで砂層となった。砂層の下は人頭大の河原石の礫層で約1m程掘り下げてみたが層が変化することにはなかった。よって、この地域一帯は三隈川の氾濫原であったと想定される。



試掘調査状況



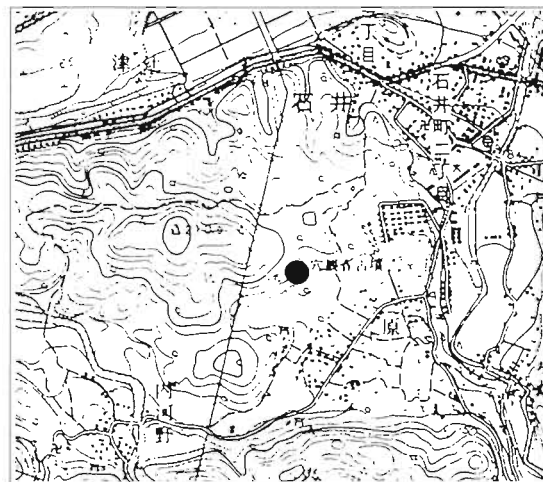
試掘調査状況

14 長者原遺跡

ちょうじゃばる

所在地 大字内河野字東又275-1
調査期間 960520～960531
開発面積 3,048㎡
調査面積 30㎡
調査費 国庫補助
遺跡の時代 —
遺跡の種類 —
担当者 永田裕久

—宅地造成に伴う試掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は、日田盆地を東西に流れる筑後川左岸の段丘上に位置している。周辺には、ガランドヤ・法恩寺古墳とともに6世紀の装飾古墳である穴観音古墳や長者原田迎遺跡等が隣接しており遺構の存在が想定された。

開発は沖積地から尾根の斜面にかけて行われるもので、調査は開発面積約3,048㎡の中に4本のトレンチを設定し掘り下げ作業を行った。沖積地の2本のトレンチからは、約20cm程掘り下げたところで地山である赤褐色のローム土が検出された。遺物は近世の陶磁器が数点検出されたのみで遺構は確認されていない。



試掘調査状況

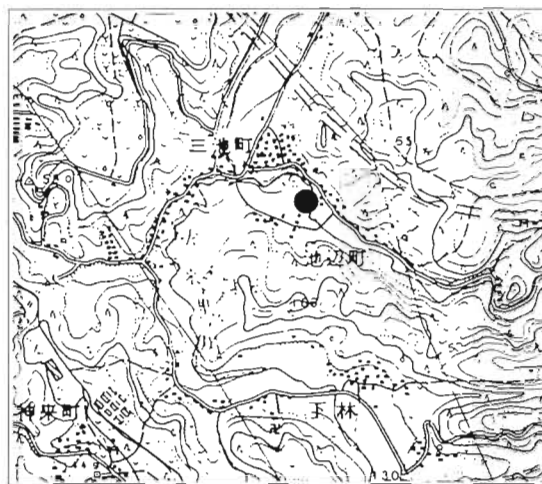


トレンチ完掘状況

15 森ノ元遺跡

—県営圃場整備事業に伴う試掘調査—

所在地 大字東有田字森ノ元3310-1他
調査期間 970110～970130
開発面積 30,000㎡
調査面積 150㎡
調査費 国庫補助
遺跡の時代 中世
遺跡の種類 集落跡
担当者 永田裕久・森山敬一郎



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地の東部、有田川の支流である求米里川左岸に広がる沖積地に位置している。遺跡の周辺には、古墳時代の住居跡・古代の掘立柱建物・土坑墓の確認された馬形遺跡や有田塚ヶ原古墳・中世墳墓が認められた尾漕遺跡等が点在している。

試掘調査は、開発面積約30,000㎡のなかに15本のトレンチを設定し調査を行った。結果、約30cmで2枚の水田層が確認されたが時期については不明である。遺構については、開発予定区域の西端にあたる沖積地で柱穴・土坑・溝等の遺構が確認された。遺物から中世の時期のものと思われる。(文責 永田)



試掘調査状況

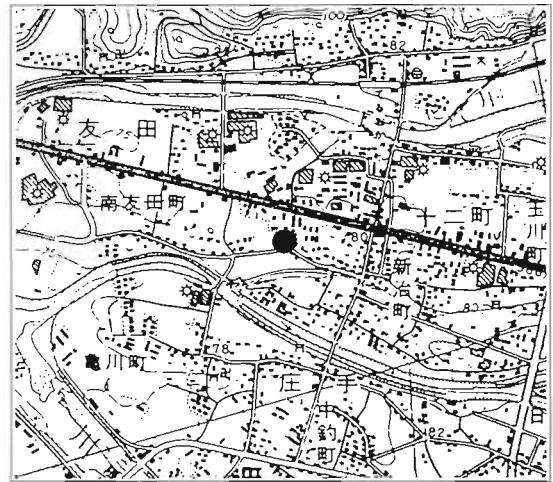


トレンチ完掘状況

16 ひ た じょうり しまざき 日田条里隣接地（島崎地区）

— 宅地造成に伴う試掘調査 —

所在地 大字十二町字堀148-1
調査期間 970116
開発面積 1,278㎡
調査面積 20㎡
調査費 国庫補助
遺跡の時代 —
遺跡の種類 —
担当者 土居和幸



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

調査地点は日田盆地内の標高約77m、庄手川の支流である城内川の右岸に位置する。調査地点から南西へ400mの位置には弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡である徳瀬遺跡、北西へ500mの位置には古墳時代中期の鍛冶工房跡が発見された荻鶴遺跡などがあり、盆地内でも重要な遺跡が存在している。

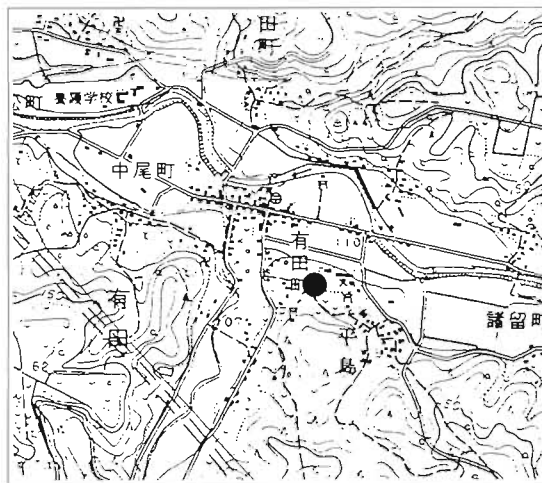
今回の調査は、近年盆地内の沖積地において遺跡の発見されるケースが増加しており、また周辺に重要な遺跡が立地していることから、開発主の協力をいただき立会調査を行うこととした。

調査では機械を使って南北方向に2×10mのトレンチ1本を設定し、遺構等の確認作業を行った。調査の結果、現水田面下に1枚の水田層を確認したが、遺物の出土がなく時期は不明であった。水田下は砂層や礫層が堆積しており、遺構は存在していなかった。

17 平島遺跡

—市道建設に伴う試掘調査—

所在地 大字東有田スキザキ2690-1
調査期間 970204～970213
開発面積 2,000㎡
調査面積 90㎡
調査費 国庫補助
遺跡の時代 近世
遺跡の種類 溝・土坑
担当者 永田裕久・森山敬一郎



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地の東部、有田川右岸の丘陵先端部及び沖積地上に位置している。周辺には、祇園原遺跡・長迫遺跡・平島遺跡・平島古墳等が点在している。丘陵先端部は現在畑地となっているが、石棺材と想定される板石や玉類が付近の人々によって採集されていることから墳墓の存在する可能性があった。

試掘調査は開発面積約2,000㎡のなかに、9本のトレンチを設定し調査を行った。その結果、丘陵上のトレンチより柱穴・溝等の遺構が確認された。沖積地のトレンチについては中世と思われる2枚の水田面が確認された。トレンチ内からは遺物は出土したものの遺構は確認されなかった。(文責 永田)



調査区遠景

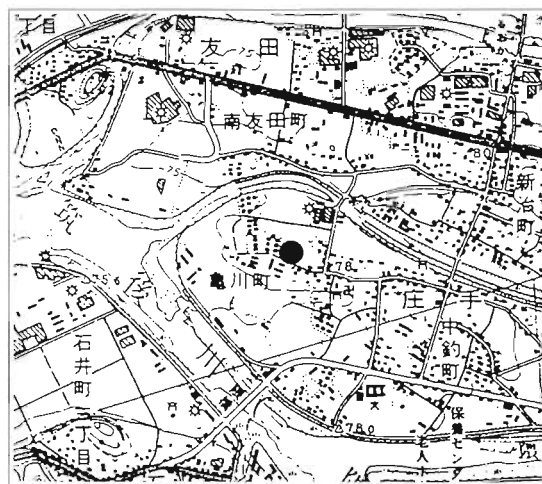


試掘調査状況

20 とくぜ 徳瀬遺跡

所在地 大字友田字徳瀬301-1ほか
 調査期間 970319
 開発面積 2,830m²
 調査面積 300m²
 調査費 国庫補助
 遺跡の時代 弥生・中世
 遺跡の種類 集落・墓地
 担当者 行時志郎

—宅地造成に伴う試掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地西部の三隈川と庄手川に挟まれた中洲の微高地上に位置する。これまでに市道や県営住宅建設などに伴い計4度の発掘が行われ、弥生時代の集落や古墳時代の方形周溝墓をはじめとする墓地などが調査されている。今回の調査区は、これまで遺跡の発見された微高地上よりも一段下った位置にあたる。

試掘調査は、機械により南北方向に1本のトレンチを設定して行った。その結果、弥生時代の土坑や中世の溝などが検出され、遺構の広がりが確認された。

調査の結果、遺構が確認されたことから、次年度に発掘調査を実施することとなった。



試掘調査状況



遺構検出状況

Ⅱ 平成8年度の埋蔵文化財普及・啓発事業

1) フォーラムの開催

本年度は、平成8年10月31日に小迫辻原遺跡が国史跡の指定を受けたことから、同遺跡の歴史的再評価を行い、遺跡の保存や活用をテーマに、県教委の「豊の国歴史再発掘」事業と、別府大学の「歴史フォーラム」企画と共同して、『まちづくりフォーラム'96黎明の比多国－小迫辻原遺跡の世界－』を開催した。

「まちづくりフォーラム'96黎明の比多国－小迫辻原遺跡の世界－」

主 催：まちづくりフォーラム'96開催実行委員会・大分県教育委員会・別府大学・日田市・日田市教育委員会

後 援：文化庁

協 賛：JR九州・日田バス

期 日：平成8年11月9日（土）～10日（日）

場 所：日田市民会館ホール／参加者数：約1,300人

内 容：◎第1部／小迫辻原遺跡を語る－豪族居館成立の謎に迫る－

講 演 「古代日田の輝き」別府大学名誉教授 賀川光夫

報 告 「小迫辻原遺跡発掘調査報告」

大分県教育委员会主任 田中裕介・日田市教育委员会主任 上居和幸

基調講演 「倭国と居館の考古学」国立歴史民俗博物館教授 阿部義平

基調講演 「弥生・古墳時代の祭儀場」

東京国立文化財研究所国際文化財保存修復協力センター長 宮本長二郎

◎第2部／小迫辻原遺跡の保存整備と活用

基調講演 「古代日田の首長の館－小迫辻原遺跡の調査と保存」別府大学教授 後藤宗俊

パネルディスカッション「小迫辻原遺跡と日田のまちづくり」

[コーディネーター] 後藤宗俊（別府大学教授）

[パネラー] 岡村道雄（文化庁主任文化財調査官）／高島忠平（佐賀県教育委員会文化財課長）／折尾学（福岡市埋蔵文化財センター所長）／川端正夫（甘木市教育委员会主任技師）／石丸邦夫（日田市観光協会会長）／大石昭忠（日田市長）／渋谷忠章（大分県教育委員会文化課主幹）

対 談「歴史がいきづくまちづくり」竹下景子（女優）・岡村道雄・大石昭忠



パネルディスカッション風景



対談風景

2) 展示会の開催

埋蔵文化財の普及に関する展示会として「企画展比多国からのメッセージ 吉野ヶ里遺跡から小迫辻原遺跡へ」と「企画展小迫辻原遺跡の世界」を開催した。前者はまちづくりフォーラムの一環として、環濠集落の成立から豪族居館の登場・発展に至る経過を県内外の代表的な遺跡の資料によって構成し、講演やパネルディスカッションの内容をより深く理解できるように催した。

また後者は同フォーラムの流れを受けて、フォーラムの共催である別府大学において、小迫辻原遺跡を中心に日田市の歴史を概観できるように、日田市の遺跡の出土品を展示した。

(1)「企画展 比多国からのメッセージ 吉野ヶ里遺跡から小迫辻原遺跡へ」

主 催：まちづくりフォーラム '96開催実行委員会・大分県教育委員会・別府大学・日田市・日田市教育委員会

期 日：平成8年11月7日（木）～11日（月）

場 所：日田市民会館別館体育館／入館者数：678人

展示品：板付・雀居遺跡（福岡市）出土遺物、平塚川添遺跡（甘木市）出土遺物、吉野ヶ里遺跡（三田川町・神崎町）出土遺物、赤塚古墳・東上田・川部・小部遺跡（宇佐市）出土遺物、谷迫遺跡（安心院町）出土遺物、多武尾遺跡（大分市）出土遺物、草場第二・小迫辻原・三和教田・遺跡（日田市）出土遺物、原ノ辻遺跡（長崎県石田町・芦辺町）・三ツ寺遺跡（群馬県群馬町）・原之城遺跡（群馬県伊勢崎町）パネル、小迫辻原遺跡復元模型・同2号居館復元模型など

(2)「企画展 小迫辻原遺跡の世界」

主 催：別府大学・大分県教育委員会・日田市教育委員会

期 日：平成9年1月19日～2月15日

場 所：別府大学付属博物館／入館者数：約500人

展示品：小迫辻原遺跡・牧原遺跡・三和教田遺跡・吹上遺跡6次調査・ガランドヤ古墳群・法恩寺山古墳群・夕田横穴墓群・有田塚ヶ原1号墳・三和教田遺跡・朝日宮ノ原遺跡・尾漕遺跡出土遺物



企画展（1）の風景



企画展（2）の風景

3) 刊行物の紹介

書 名 『会所宮遺跡』－日田市埋蔵文化財調査報告書第11集－
 体 裁 A4版
 総ページ数 本文40ページ、写真図版14ページ
 内 容 市道建設に伴って発掘調査が行われた会所宮遺跡3次にわたる報告。弥生時代の竪穴住居・土坑・溝、古墳時代の土坑・溝、古代から中世の溝・柵列、中世の土坑・水田跡・包含層などの図面や出土遺物の実測図などを掲載している。また、付編として遺跡に近接する烏羽塚古墳も収録。



書 名 『牧原遺跡』－日田市埋蔵文化財調査報告書第12集－
 体 裁 A4版
 総ページ数 本文40ページ、写真図版6ページ
 内 容 広域農道建設に伴って発掘調査が行われ牧原遺跡の調査報告。縄文時代の上偶や、古墳時代前期の方形周溝墓、石棺墓、木棺墓、土坑墓、土坑、近世の道状遺構（小国街道の一部）などの発掘資料などの図面や出土遺物の実測図などを掲載している。また、隣接する牧原千人塚の確認調査記録も収録。



書 名 『黎明の比多国－小迫辻原遺跡の世界－』
 まちづくりフォーラム'96資料集
 体 裁 A4版
 総ページ数 本文41ページ（写真図版込み）
 内 容 平成8年11月9～10日に行われたまちづくりフォーラム'96『黎明の比多国－小迫辻原遺跡の世界－』の講演等発表資料。



4) 新指定文化財の紹介

今年度埋蔵文化財関係の指定文化財は、小迫辻原遺跡が国史跡の指定を受けた。平成6年10月4日の国指定史跡申請以後、同年11月18日の答申を経ての正式告示である。

(指定の名称) 小迫辻原遺跡

(史跡の所在地) 日田市大字小迫字経塚1175-2、1176-1・3・4、1177のうち実測 834㎡、大字小迫字辻原1189-1、1190、1191、1193-1・2、1194、1196、1197、1198-1・6・7、1199-2・4、1204-4、1214-2・4、1215-2・4、1216、1217、1218、1219、1220-1・2、1221-1・2、1222-1・3、1223-1・3、1224、1225、1226、1227、1228、1229、1230、1231、1232、1233、1234、1235、1236、1237-1・2、1238番-1・2、1239、1240-1・2、1241、1242-1・2、大字小迫字辻原免1362-1、1363-1・2、1364-1・2、1371-1、上記地域に介在する道路敷を含む。

(指定面積) 81,926.36㎡

(官報告示) 平成8年10月31日付文部省告示第186号（官報第2009号登載）

(史跡の概要) 小迫辻原遺跡は日田盆地北部の標高約120m、比高差約40mの台地上にあり、昭和59年～平成5年におこなわれた発掘調査の結果、旧石器～近世の各時代にわたる生活遺構が確認されている。なかでも、弥生時代後期後半～古墳時代前期初めにかかる時期の3つの環濠集落と3つの方形環濠建物は、環濠集落とそこから発展した祭祀色の濃い方形環濠建物が出現、変化していく過程をあらわすと考えられ、わが国の国家形成期の社会状況を解明するうえで重要である。



小迫辻原遺跡の3基並ぶ居館跡（方形環濠建物）

Ⅲ 平成8年度受領図書一覧

書名	寄贈者	刊行年
栃木県		
1. 成沢遺跡（栃木県埋蔵文化財調査報告第138集）	栃木県教育委員会	1993
群馬県		
2. 古代東国の王者 三ツ寺居館とその時代 （群馬県立歴史博物館第31回企画展 第6回出土文化財巡回展示会）	群馬県埋蔵文化財調査事業団	1988
埼玉県		
3. 子育ての原風景 カミの子からムラの子へ	埼玉県立博物館	1994
千葉県		
4. 農耕開始期の石器組成1 近畿（大阪・兵庫）中国・四国	国立歴史民俗博物館	1996
5. 農耕開始期の石器組成2 近畿（大阪・兵庫）中国・四国	〃	1996
6. 蝦夷の墓—森ヶ沢遺跡調査概要（北部日本における文化交流の研究）	〃	1994
7. 国立歴史民俗博物館研究報告第63集	〃	1995
8. 国立歴史民俗博物館研究報告第66集	〃	1996
9. 国立歴史民俗博物館研究報告第67集	〃	1996
10. 国立歴史民俗博物館研究報告第68集	〃	1996
11. 国立歴史民俗博物館研究報告第69集	〃	1996
12. 国立歴史民俗博物館研究年報2	〃	1994
13. 国立歴史民俗博物館研究年報3	〃	1995
14. 漆文化（—縄文・弥生時代—企画展示）	〃	1994
15. 描かれた祭礼（企画展示）	〃	1994
東京都		
16. 1996新発見考古速報 発掘された日本列島	朝日新聞社	1996
17. 日本の発掘 アサヒグラフ編（1991～1995）新遺跡カタログvol.4	〃	1997
18. 上野忍ヶ岡遺跡	国立西洋美術館埋蔵文化財発掘調査委員会	1996
19. 明治大学考古学博物館 館報No.10	明治大学考古学博物館	1995
20. ムゼイオン 第40号	立教大学・学校・社会教育講座	1994
21. ムゼイオン 第41号	〃	1995
22. 旧岩崎家住宅所在遺跡（消防施設建設工事に伴う発掘調査報告書）	台東区湯島貝塚遺跡調査団	1997
神奈川県		
23. 仏像（中世の世界に誘う院派仏師の系譜と造像特別展）	横浜市歴史博物館	1995
24. 弥生のいくさと環濠集落（大塚・蔵勝土遺跡の時代）（開館記念特別展）	〃	1995
25. 弥生墓制の系譜（平成8年度企画展）	秦野市立板土手古墳展示館	1996
静岡県		
26. 五ヶ山B-1号墳	浅羽町教育委員会	1993
27. 古新田遺跡Ⅰ（遺構編・別冊）	〃	1992
28. 古新田遺跡Ⅱ（遺物編）	〃	1993
岐阜県		
29. 歴史の道 中山道整備事業報告書	中津川市教育委員会	1996
京都府		
30. 京都府埋蔵文化財情報第59号	京都府埋蔵文化財調査研究センター	1996
31. 京都府埋蔵文化財情報第60号	〃	1996
32. 京都府埋蔵文化財情報第61号	〃	1996
33. 京都府埋蔵文化財情報第62号	〃	1996
大阪府		
34. 井ノ内稲荷塚古墳（第3次発掘調査概報 長岡京市文化財調査報告書第34冊別刷）	大阪大学文学部考古学研究室	1996
35. 池上曽根遺跡（池上曽根遺跡史跡指定20周年記念シンポジウム資料集）	池上曽根遺跡史跡指定20周年記念事業実行委員会	1996
36. 100年の軌跡（池上曽根遺跡を掘る みえてきた弥生都市）	〃	1996
兵庫県		
37. 「紀要」第1輯（村川行弘先生古稀記念特輯）	のじぎく文化財保護研究財団	1996
38. のじぎく文化財だより第53号	〃	1996
39. 淡河中村遺跡（本文編）	阪神文化財協会	1992
40. 淡河中村遺跡（図版編）	〃	1992
奈良県		
41. 奈良国立文化財研究所年報（1995）	奈良国立文化財研究所	1996
42. 発掘調査概報（1995年度 平城宮跡発掘調査部）	〃	1996
43. 埋蔵文化財ニュース（No.8） 古代地方官衙遺跡関係文献目録	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	1996

書名	寄贈者	刊行年
44. 埋蔵文化財ニュース (No.82 1990年度刊行埋蔵文化財発掘調査に関する情報調査)	奈良国立文化財研究所 埋蔵文化財センター	1996
45. 埋蔵文化財ニュース (No.83 報告書の体裁)	"	1996
46. 埋蔵文化財ニュース (No.84 1992～1995年度埋蔵文化財関係統計資料)	"	1997
広島県		
47. 辰の口古墳発掘調査概報	広島大学文学部考古学研究室	1995
48. 1996古代の塩作りシンポジウム (蒲刈をめぐる瀬戸内海の古代土器製塩を考える)	"	1995
山口県		
49. 下関市立考古博物館 (常設展示図録)	下関市立考古博物館	1995
50. 綾羅木郷遺跡の歴史展	"	1995
51. 下関市立考古博物館年報Ⅰ (平成7年度)	"	1996
52. 山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅢ	山口大学	1995
53. 山口大学内特定研究経費成果報告書 (山口大学考古学・地理学オンラインミュージアム創設に関する研究)	"	1996
愛媛県		
54. 萩の岡貝塚	愛媛大学法文学部考古学研究室	1996
55. 江口貝塚Ⅲ (愛媛大学法文学部考古学報第4冊)	"	1996
56. 妙見山古墳群1号墳整備概報 (1995～1996)	大西町教育委員会	1996
徳島県		
57. 徳島市埋蔵文化財発掘調査概要6	徳島市教育委員会	1996
58. 「阿波国府とその周辺」と最近の発掘調査 (企画展示)	"	1996
福岡県		
59. 朝倉郡杷木町所在杷木宮原遺跡・中原遺跡の調査	福岡県教育委員会	1991
60. 福岡市埋蔵文化財センター年報第15号平成7 (1995) 年度	福岡市埋蔵文化財センター	1997
61. 比恵遺跡13 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第368集)	福岡市教育委員会	1994
62. 鴻臚館跡4 (福岡市埋蔵文化財報告書第372集)	"	1994
63. 井尻B遺跡4・南八幡遺跡4 (福岡市埋蔵文化財報告書第441集)	"	1996
64. 比恵遺跡群19 (福岡市埋蔵文化財報告書第442集)	"	1996
65. 博多49 (福岡市埋蔵文化財報告書第443集)	"	1996
66. 原遺跡8 (福岡市埋蔵文化財報告書第444集)	"	1996
67. 持田ヶ浦古墳群2 (福岡市埋蔵文化財報告書第445集)	"	1996
68. 蒲田部木原3次 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第446集)	"	1996
69. 博多50 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第447集)	"	1996
70. 博多51 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第448集)	"	1996
71. 博多52 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第449集)	"	1996
72. 博多53 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第450集)	"	1996
73. 比恵遺跡群20 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第451集)	"	1996
74. 比恵遺跡群21 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第452集)	"	1996
75. 比恵遺跡群22 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第453集)	"	1996
76. 那珂遺跡15 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第454集)	"	1996
77. 那珂遺跡16 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第455集)	"	1996
78. 下月隈天神森遺跡Ⅱ (福岡市埋蔵文化財調査報告書第456集)	"	1996
79. 下月隈天神森遺跡Ⅲ (福岡市埋蔵文化財調査報告書第457集)	"	1996
80. 井相田C遺跡第5次・高畑遺跡第14次 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第458集)	"	1996
81. 箱崎遺跡4 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第459集)	"	1996
82. 東那珂遺跡2 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第460集)	"	1996
83. 福岡城赤坂門跡 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第463集)	"	1996
84. 吉塚2 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第464集)	"	1996
85. 立花寺4 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第466集)	"	1996
86. 福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告Ⅰ (福岡市埋蔵文化財調査報告書第467集)	"	1996
87. 次郎丸遺跡Ⅰ (福岡市埋蔵文化財調査報告書第468集)	"	1996
88. カルメル修道院内遺跡Ⅲ (福岡市埋蔵文化財調査報告書第469集)	"	1996
89. 有田・小田部 第23集 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第470集)	"	1996
90. 有田・小田部 第24集 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第471集)	"	1996
91. 有田・小田部 第25集 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第472集)	"	1996
92. 有田・小田部 第26集 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第473集)	"	1996
93. 兜塚古墳 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第474集)	"	1996
94. 堀ノ内遺跡Ⅰ (福岡市埋蔵文化財調査報告書第475集)	"	1996
95. 三苦永浦遺跡 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第476集)	"	1996
96. 三苦遺跡群2 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第477集)	"	1996

書名	寄贈者	刊行年
97. 姪浜遺跡2 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第478集)	福岡市教育委員会	1996
98. 今宿五郎江遺跡Ⅲ・徳永A遺跡Ⅲ・丸隈山遺跡群Ⅰ (福岡市埋蔵文化財調査報告書第479集)	"	1996
99. 桑原遺跡群2 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第480集)	"	1996
100. 大原D遺跡群1 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第481集)	"	1996
101. 四箇周辺遺跡調査報告書(7) (福岡市埋蔵文化財調査報告書第482集)	"	1996
102. 西神町遺跡4 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第483集)	"	1996
103. 西神町遺跡5 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第484集)	"	1996
104. 入部Ⅵ (福岡市埋蔵文化財調査報告書第485集)	"	1996
105. 鴻臚館跡6 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第486集)	"	1996
106. 鴻臚館跡7 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第487集)	"	1996
107. 福岡市埋蔵文化財年報vol.9 (1994年度)	"	1996
108. 吉武遺跡群Ⅶ (福岡市埋蔵文化財調査報告書第461集)	"	1996
109. 長峰遺跡2 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第462集)	"	1996
110. 立花寺3 (福岡市埋蔵文化財調査報告書第465集)	"	1996
111. 太宰府文化財名選	太宰府市教育委員会	1996
112. CD [太宰府] (シリアルナンバー1000887)	"	1996
113. 太宰府市の文化財 (第30集)	"	1996
114. " (第31集)	"	1996
115. 安武地区遺跡群Ⅶ (久留米市文化財調査報告書第87集)	久留米市教育委員会	1994
116. 東部地区埋蔵文化財調査報告書 第13集 (久留米市文化財調査報告書第88集)	"	1994
117. 久留米市御井旗崎一丁目所在遺跡の調査 (久留米市文化財調査報告書第91集)	"	1994
118. 大善寺北部地区遺跡群Ⅲ (久留米市文化財調査報告書第92集)	"	1994
119. 野中三十六遺跡 (久留米市文化財調査報告書第94集)	"	1994
120. 津福西小路遺跡 (久留米市文化財調査報告書第95集)	"	1994
121. 久留米城外郭 佐々木家屋敷跡 (久留米市文化財調査報告書第96集)	"	1995
122. 久留米市内遺跡群 (平成6年度) (久留米市文化財調査報告書第97集)	"	1995
123. 安武地区遺跡群Ⅸ (久留米市文化財調査報告書第99集)	"	1995
124. 史跡御塚・権現塚古墳保存修理事業報告書 (久留米市文化財調査報告書第101集)	"	1995
125. ハヶ坪遺跡第6・7地点 (筑紫野市文化財調査報告書第22集)	筑紫野市教育委員会	1989
126. 原田地区遺跡群 (筑紫野市文化財調査報告書第37集)	"	1993
127. 「従是北筑前国」銘国境石 (筑紫野市文化財調査報告書第45集)	"	1990
128. 五郎山古墳 (筑紫野市文化財報告書第46集)	"	1996
129. 東遺跡・岡田地区遺跡群Ⅰ (筑紫野市文化財調査報告書第51集)	"	1996
130. 一ノ口Ⅰ地点 (小郡市文化財調査報告書第86集 本文)	小郡市埋蔵文化財センター	1994
131. 一ノ口Ⅰ地点 (小郡市文化財調査報告書第86集 遺構)	"	1994
132. 一ノ口Ⅰ地点 (小郡市文化財調査報告書第86集 土器)	"	1994
133. 一ノ口Ⅰ地点 (小郡市文化財調査報告書第86集 石器・表)	"	1994
134. 一ノ口Ⅰ地点 (小郡市文化財調査報告書第86集 図版)	"	1994
135. 三国地区遺跡群4 (小郡市文化財調査報告書第97集)	"	1994
136. 三国地区遺跡群5 (小郡市文化財調査報告書第98集)	"	1994
137. 大保西小路遺跡 (小郡市文化財調査報告書第99集)	"	1994
138. 福童山の上遺跡2・小郡正尻遺跡2 (小郡市文化財調査報告書第100集)	"	1994
139. 刈又地区遺跡群Ⅰ (小郡市文化財調査報告書第101集)	"	1994
140. 小郡正尻遺跡3 (小郡市文化財調査報告書第107集)	"	1994
141. 三国地区遺跡群6 (小郡市文化財調査報告書第109集)	"	1994
142. 三国地区遺跡群7 (小郡市文化財調査報告書第111集)	"	1994
143. 富地原陣屋崎 (宗像市文化財調査報告書第41集)	宗像市教育委員会	1994
144. 宗像の歴史散歩 宗像市文化財ガイドブック	"	1997
145. 平塚川添遺跡発掘調査概報	甘木市教育委員会	1993
146. 在自遺跡群Ⅲ (津屋崎町文化財調査報告書第11集)	津屋崎町教育委員会	1996
147. 筑前金屋遺跡調査報告書 (芦屋町文化財調査報告書第7集)	芦屋町教育委員会	1996
148. 旧芦屋小学校遺跡調査報告書 (芦屋町文化財調査報告書第8集)	"	1996
149. 中原塔ノ元遺跡Ⅱ (那珂川町文化財調査報告書第37集)	那珂川町教育委員会	1996
150. 仲遺跡Ⅱ (那珂川町文化財調査報告書第38集)	"	1996
151. 王塚古墳 (桂川町文化財調査報告書第13集)	桂川町教育委員会	1994
152. 甲条神社遺跡 (大刀洗町文化財調査報告書第7集)	大刀洗町教育委員会	1995
153. 大刀洗町遺跡分布地図 (大刀洗町文化財調査報告書第8集)	"	1995
154. 本郷橋遺跡 (大刀洗町文化財調査報告書第9集)	"	1996
155. 下高橋上野遺跡Ⅱ (大刀洗町文化財調査報告書第10集)	"	1996
156. 宮尾遺跡A地点 (水巻町文化財調査報告書第3集)	水巻町教育委員会	1996

書名	寄贈者	刊行年
157. 鯉口遺跡（水巻町文化財調査報告書第4集）	水巻町教育委員会	1996
158. 穂坂天神原遺跡（杷木町文化財調査報告書第2集）	杷木町教育委員会	1995
159. 二十谷遺跡第2地点・小覚原第2地点（杷木町文化財調査報告書第3集）	"	1995
160. 縄文と弥生の神と祈り	北九州市立考古博物館	1996
161. 北九州の金工品 鋳る、鍛える、匠の技（平成5年度特別展）	北九州市立歴史博物館	1993
162. 九州歴史資料館年報 平成5年度	九州歴史資料館	1994
163. 九州歴史資料館年報 平成6年度	"	1995
164. 九州文化史研究紀要 第40号	九州大学大学院比較社会文化研究科	1996
佐賀県		
165. 吉野ヶ里遺跡発掘調査概報Ⅱ	佐賀県教育委員会	1994
166. 御手水遺跡Ⅱ-2区の調査-（佐賀市文化財調査報告書第64集）	佐賀市教育委員会	1995
167. 琵琶原遺跡4区・草場遺跡1区（佐賀市文化財調査報告書第65集）	"	1996
168. 藤附遺跡1区・大塚遺跡1区・大日遺跡2区（佐賀市文化財調査報告書第66集）	"	1996
169. 上揚遺跡3区（佐賀市文化財調査報告書第67集）	"	1996
170. 佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書（佐賀市文化財調査報告書第68集）	"	1996
171. 来迎寺遺跡・若宮原遺跡（佐賀市文化財調査報告書第69集）	"	1996
172. 西千布遺跡・友貞遺跡（佐賀市文化財調査報告書第70集）	"	1996
173. 修理田遺跡Ⅰ-1区の調査-（佐賀市文化財調査報告書第71集）	"	1996
174. 忠兵衛屋敷遺跡（佐賀市文化財調査報告書第72集）	"	1996
175. 下和泉一本椎遺跡Ⅰ-1～3区の調査-（佐賀市文化財調査報告書第73集）	"	1996
176. 下村遺跡-1・2区の調査-（佐賀市文化財調査報告書第74集）	"	1996
177. 東千布遺跡Ⅱ 2区の調査（佐賀市文化財調査報告書第75集）	"	1996
178. 佐賀城跡（佐賀市文化財調査報告書第76集）	"	1996
179. 東名遺跡（佐賀市文化財調査報告書第77集）	"	1996
180. 茂手遺跡	武雄市教育委員会	1982
181. 納手遺跡・板橋遺跡・みやこ遺跡	"	1983
182. 郷ノ木遺跡B地点（武雄市文化財調査報告書第14集）	"	1984
183. 潮見遺跡・山下遺跡・北上野地区確認調査・中小路遺跡	"	1984
184. 庄ノ前遺跡（武雄市文化財調査報告書第13集）	"	1984
185. からつの自然と遺宝	唐津市教育委員会	1996
186. 名護屋城跡と陣跡「文禄・慶長の役」-つわものどもが夢の跡-	鎮西町教育委員会	1996
187. 特別史跡名護屋城跡並びに陣跡	"	1996
188. 佐賀平野の阿蘇4 火砕流と埋没林（上峰町文化財調査報告書第11集）	上峰町教育委員会	1996
189. 詫田西分遺跡Ⅱ区の調査	千代田町教育委員会	1996
熊本県		
190. つつじヶ丘横穴群発掘調査概報Ⅱ	熊本市教育委員会事務局	1995
191. 内牧城跡（阿蘇町文化財調査報告書第4集）	阿蘇町教育委員会	1996
192. 大分県の装飾古墳（全国の装飾古墳2）平成8年度後期企画展	熊本県立装飾古墳館	1996
193. 熊本大学埋蔵文化財調査室年報2 1995年	熊本大学埋蔵文化財調査室	1996
長崎県		
194. 壱岐・原の辻遺跡 魏志倭人伝の世界-一支国の中心集落-	長崎県教育委員会	1995
195. 万才町遺跡	長崎県埋蔵文化財調査協議会	1996
196. 新地唐人荷蔵跡	"	1996
大分県		
197. 机張原遺跡・女狐近世墓地区・庄ノ原遺跡群	大分県教育委員会	1996
198. 利光遺跡Ⅱ 1995		
199. 利光遺跡・上戸次北遺跡・上戸次遺跡	"	1996
200. 府内城三ノ丸北口跡	"	1996
201. 横手遺跡群発掘調査報告書（大分県文化財調査報告書第93集）	"	1996
202. 大分県文化財年報4 -平成6（1994）年度版-	"	1996
203. 日田～玖珠間九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第4集	"	1996
204. 大分県内遺跡発掘調査概報 4	"	1996
205. 徳瀬遺跡（大分県文化財調査報告書第94集）	"	1996
206. 岩崎横穴墓	"	1996
207. 下郡桑苗遺跡（大分県文化財調査報告書第80輯）	"	1989
208. 国指定史跡大分元町石仏保存修理事業報告書	大分市教育委員会	1996
209. 古宮古墳保存修理事業報告書	"	1996
210. 沖代地区条里跡福岡遺跡東入垣地区（中津市文化財調査報告書第17集）	中津市教育委員会	1996
211. 宇佐地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ	宇佐市教育委員会	1995

書名	寄贈者	刊行年
212. 虚空蔵寺遺跡・切寄遺跡・下林遺跡Ⅳ区	宇佐市教育委員会	1995
213. 正布ヶ迫遺跡・柳沢遺跡・松ヶ原遺跡・下林遺跡Ⅰ区・下林遺跡Ⅱ区	"	1994
214. 東屋敷遺跡・大園遺跡・西ノ股遺跡・石原貝塚2次調査	"	1996
215. 虚空蔵寺跡10次調査・小部遺跡12次調査・別府遺跡10次調査・台ノ原遺跡6次調査・瓦塚遺跡3次調査	"	1996
216. 史跡安国寺集落遺跡史跡整備基本設計	国東町教育委員会	1996
217. 横手遺跡群・陽弓遺跡（大分県国東町文化財調査報告書第12集）	"	1996
218. 千疋遺跡（大分県国東町文化財調査報告書第13集）	"	1996
219. 院内町の石橋	院内町教育委員会	1996
220. 下津尾遺跡文化財調査概報	犬飼町教育委員会	1996
221. 山野城跡 保安林管理道開設に伴う発掘調査報告書（久住町文化財調査報告書）	久住町教育委員会	1995
222. 久住町の文化財	"	1995
223. 町墳墓群（朝地地区遺跡群発掘調査報告書Ⅲ）	朝地町教育委員会	1996
224. 玖珠町の文化財 角牟礼城跡	玖珠町教育委員会	1996
225. 香々地の遺跡Ⅱ（香々地町文化財調査報告書第2集）	香々地町教育委員会	1995
226. 小田山城と関連遺跡 第2次報告書	弥生町教育委員会	1995
227. 小田山城と関連遺跡 第3次報告書	"	1996
228. 米水津の文化財	米水津村教育委員会	1995
229. 豊後国田原別符の調査Ⅰ（大田村文化財調査報告書第1集）	大田村教育委員会	1994
230. 六郷山寺院遺構確認調査報告書Ⅱ（大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館報告書第13集）	大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1994
231. 六郷山寺院遺構確認調査報告書Ⅲ（大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館報告書第15集）	"	1995
232. 六郷山寺院遺構確認調査報告書Ⅳ（大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館報告書第17集）	"	1996
233. 国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概報 豊後国香々地荘3	"	1996
234. 大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報1995年	"	1996
235. 大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュースNo.39	"	1996
236. 大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュースNo.40	"	1996
237. 大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュースNo.41	"	1996
238. 宇佐歴史民俗資料館年報 平成3年度	"	1992
239. 宇佐歴史民俗資料館年報 平成4年度	"	1993
240. 国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概報 豊後国香々地荘1	"	1994
241. 大分市歴史資料館ニュース第34号	大分市歴史資料館	1996
242. 大分市歴史資料館ニュース第35号	"	1996
243. きつき城下町資料館年報第1号	きつき城下町資料館	1994
244. 杵築の文化財 先人が遺した郷土文化財の粹	"	1994
245. おおいたの石橋第7号	大分の石橋を研究する会	1995
246. 別府大学紀要第37号	別府大学会	1996
247. 別府大学アジア歴史文化研究所報 第13号	別府大学アジア歴史文化研究所	1996
宮崎県		
248. 平成7年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書	宮崎県教育委員会	1996
249. 門川南町遺跡	"	1996
250. 国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認報告書Ⅴ	"	1996
251. 祇園原地区遺跡	"	1996
252. 高岡麓遺跡	"	1996
253. 山ノ田第1遺跡	"	1996
254. 雁寺第2遺跡・山城第1遺跡（高城町文化財調査報告書第5集）	高城町教育委員会	1996
沖縄県		
255. NEWS LETTER 九州・沖縄水中考古学会報vol. 2No.4	九州・沖縄水中考古学協会	1994
256. NEWS LETTER 九州・沖縄水中考古学会報vol. 3No.1	"	1994
257. NEWS LETTER 九州・沖縄水中考古学会報vol. 3No.2	"	1995
258. NEWS LETTER 九州・沖縄水中考古学会報vol. 3No.3	"	1996

平成8年度(1996年度)
日田市埋蔵文化財年報

発行日 平成10年3月31日

編集 日田市教育委員会

発行 〒877-8601

大分県日田市田島2-6-1

印刷 尾花印刷有限会社